

# 野津原方言集 続21



「初夏」

’89日中国際展銅賞 - F10号 (53cm×46cm)

2009/10/26

野津原方言集 続No.21号 《通算31号》

表紙画……………《遺作版画》寺司勝次郎。  
題字……………姫野順子。  
カット……………カット集団。

★ ご支援いただいた皆様

寺司勝次郎、菊屋奈良義、松本英明、酒井治郎、岡本政雄。  
波多野テル子、佐藤敏子、柴田文子、斎藤キミエ、小野雄司。  
豊東サツキ、川西哲男、三苫勇、足立勇、佐藤ミチ子、秦清。  
雨川元善、佐藤千津代、佐藤ナツエ、後藤恒男、塚本慎一郎。  
工藤貢、手柴勇。松岡実。田中敏子。

★ 利用させていただいた資料

野津原町史、原村小史、宇曾山物語、野津原文化財資料。月の唄。  
松岡実調査資料、小学館百科辞典、郷土歴史記録資料。石原文庫。

平成27年10月吉日

野津原方言集 No.21号 《通算31号》

調査收拾編集印刷製本スタッフ

小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ、佐藤源治。

発行 大分市大字竹矢 野津原方言調査会

会長 小野寿祐

☎ 097-588-0572

事務局…588-0092

## 思い出に残る 版画家の 寺司勝次郎先生

古い屋根瓦風景に 一途の精魂込めた 版画家の寺司先生。  
ある日 『方言集ち面白い 本ぬ発行しよんな ここかえ』  
突然のお越しに 戸惑いましたが その方が 有名な版画家  
寺司先生との 巡り会いでした。

豊後高田ん 『方言大会』に とともに出演した 奇しき縁  
の人との出会いは 想像したような ご人とは全く 異なる  
気さくな 話がすぐ通じ合う。『表紙に使わせて いただけ  
ないでしょうか』 勇気のいる 問い合わせに 『いいで』  
随分 不躰で横着なち でも そのご返事は やっぱ取り組  
んでよかったと 頑張る力も いただきました。

気さくで在学中『絵画同好会』を 結成 郵政省の年賀版  
画コンクールに 入賞を機に 屋根瓦えの執念を 貫いて  
60余年 その健筆『屋根瓦風景』を 素人が20年余取り  
くんでいる 『方言集の表紙に使わせてほしい』 お願いす  
ると即座に快く 汲み取ってくださったのです。

行きずりの機会に 発行の都度冊子を お届けしてご笑覧  
願っていましたが 昨年11月8日にお会いしたのが 最後  
になりました。心よりご冥福をご祈念申します。

今回はその遺作の一点の 『初夏』を 使わせて頂きました  
。気品のある版画は 永久に輝くことでしょう。これから  
も発行の際には お届けもうしますので 天国から笑って  
七瀬の古狸を回想して下さいませ。本当に長い期間 ご支援  
ご協力に感謝もうしあげます。

編集部 七瀬の狸坊主

屋根の版画家

てら し かつ し ろう  
寺 司 勝次郎

大分市三ヶ田町10

☎ (097) 543-5381



日本版画会会員。ル・サロン会員。

〔主要受賞歴〕

1977年スイス美術賞展優秀賞。

1979年フランス美術賞オンフルール展金賞。

1986年ポルトガル国際展リスボン市長賞。

1988年フランス国際親善美術展一等賞。

1990年フランス・カーニュ国際美術大賞展金賞。

1990年イギリス国際親善美術展ミドルズブロー市長賞。

1991年フランス「ル・サロン展」銀賞。

1993年イギリス・オックスフォード国際美術大賞展1位。

1993年フランス国際親善美術展1位。

1994年大分合同新聞文化賞（芸術部門）。

1998年文部大臣奨励賞受賞

海外展受賞45回。国内展受賞10回。

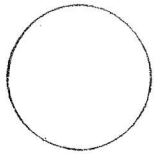
◆1927年大分市生まれ。南大分小、大分中、海軍航空隊勤務（甲飛13期）を経て、1948年大分経済専門学校（現大分大学経済学部）卒業。在学中に「絵画同好会」を結成。1954年郵政省の年賀状版画コンクール入賞を機に油彩より屋根瓦の木版画に専念する。

◆1966年日展に初出品初入選（67、68、74年にも入選）、また日版展、白日展でも入選・入賞を重ねるが、1976年より海外展に積極的に出品し、10数カ国での公募展にて45回の受賞を数える。

◆師につかず、弟子をとらず、自由な立場で独自の新境地を開き、屋根の版画家として確たる地位を築く。今後も全国主要都市での個展活動を中心に、生涯1000点の屋根の版画製作を目標に意欲を燃やしている。

大分川ん支流んほとりゅ歩くと 川ん流れは見事に  
澄んじよる。そん狭え川ん周りゅ緑ん 木木が影う  
写しち別天地ん環境 一層美しくしゅ見する自然世界  
。時代劇にでん出るごたる場所。時折り跳ぬる銀燐  
キラリ光っち 心和ませそよ風無性に語りかける。  
それが又ゆう似合う。

平成8年11月ん豊後高田ん『方言弁論大会』じ  
2位栄冠の『鬼瓦と版画達人の妙技』 見事ん語り  
い会場うならせた。人ん巡り合わせたあ不思議なも  
んじ 生まれついてん宿命か 版画が表紙を飾って  
くださった。おおきにだんだん。



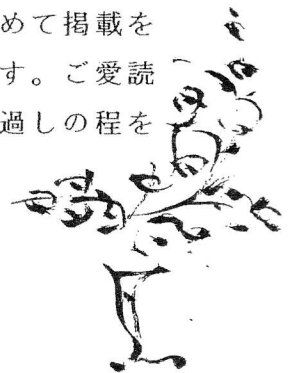
## やがて出来るか桃源郷

農家の将来が不安と クチナシ栽培を計画したが 若くして死去の憂き目の夢は何とか 叶えてあげたいと取り組む 苦渋な挑戦に 学生たちが奉仕活動で 冷たい風にも摘み取りに 若さと情愛が支えに輝く夢に描いた 『クチナシの里』が仄かに 脚光浴びた初春のニュースが 後継老婆を勇気づけています。

野津原の山肌に咲く心の情愛は きっと将来の桃源郷にも 結びつくのでは。方言調査も取り組んで23年 本当にてよかった明るい 故郷発展の星を捜し当てると これからも頑張る意欲が湧く思いに駆られます。多くの皆様のご支援ご愛読で 資料が活かされ心が通い合う 粗末な冊子でも是非今後も継続して お役にたつならばと勇気づけられます。

今回から始まる『街道…宇曾山物語』も 資料を別府市の愛読者より 『好きだから使え』ご協力頂き 野津原の自然のよさに惚れた 幸せが嬉しいと喜んでくれた。感謝しています。10余りの項目にも味があり物語にも つい誘い込まれるような素人作りが かってユニークと背中おして くださった皆様に甘えて 全て手づくりの粗末な冊子ですが ご協力願っています。

方言集の性格上使ってはいけない言葉 卑下する言葉 差別用語も入っていますが これも何とどご了承ください。今だから残さないと消えて なくなってしまうからです。『宝の玉手箱』『女性の底力』などには ご苦勞されたままに 表面には出ないままで 終えられた先人たちの 功績や苦勞された逸話なども 集めて掲載を継続して参りますので ご協力のほどお願い申し上げます。ご愛読頂きましてまことに 有り難うございます。お元気にお過しの程をご祈念申しています。健康こそ幸せの原点です。



## 目次

表書き	1	★あげな話こげな話	
はじめて	2	松根油に願い込め	4 7
目次	3	孫は可愛いや	4 8
★名月様ん楽しい時間	5	誰にも出来る無我の七施	4 9
方言説明	9	方言説明	5 1
★戦後の故郷		子どもん世界宝捜し	5 2
3 3 年代	1 3	★女性の底力	
3 4 年代	1 4	加賀縫製進出	5 3
3 5 年代	1 5	踊りに執念かけて	5 4
3 6 年代	1 7	働く事は周り豊かに	5 5
3 7 年代	1 9	方言説明	5 7
方言説明	2 0	戦後に見る女性の底力	5 8
★方言子どもん世界		方言説明	6 0
3 つ残した心くぼり	2 3	★五助宇曾山物語	
使いの加勢	2 5	宇曾山は野津原の東の顔	6 1
汚れた鍬の嬉しい日	2 7	宇曾ん大根浸け	6 2
方言説明	2 9	参道の道すがら	6 3
こぼればなし	3 0	方言説明	6 5
★故郷の味、魅力、		大和武尊の辿った道	6 6
漬け物は欠かせない	3 1	修験場の夜明け	6 7
漬け物あれこれ	3 3	★方言単語のひろがり	
明かりと野津原	3 5	『し』の『ソ』から	6 9
方言説明	3 7	★ちょうど一服	
★室の玉手箱		玉せせり	7 7
即身成仏の秘話	3 9	誰でん言われん頼みごと	7 9
南新四国記念碑	4 1	方言説明	8 3
水を恵んだ老僧	4 3	★方言単語のひろがり	8 5
方言説明	4 5	★あとがき	9 9
		★伝言板	1 0 0

◎◎◎ 野津原で使っている 大分県を代表の方言集 ◎◎◎

あばかる……………ヒロガッチ。がいて……………ガビョウ。  
いきたむながる…イクヌキラウ。かくうつ……………タチノミスル。  
いちみちくり……………イッテミテ。かたる……………ナカマニハイル。  
いっすんずり……………ジュウタイジ。きちょくれ……………キテクザサイ。  
いみる……………フエル。ぎゅうらしい……………サワガシイ。  
えごんいい……………エガオガイイ。くされ……………イジワル。  
ええらしい……………アイラシイ。けつろく……………ツマランコト。  
おじい……………オソロシイ。ごてーしん……………ブショウモン。  
おっちょる……………メバエチョル。さかしい……………ゲンキデ。  
おらぶ……………サケブ。じり……………ヌカルミニ。

シンケン……………一生懸命。ハワク……………掃く。  
ズツネ……………苦しい情けない。ヒラクチ……………普段のものいい。  
セライゴ養子もらって出来た子 へノツッパリ……………役立たず。  
セル……………押す。ホゲ……………でたらめ。  
ソーデ……………そうですよ。ムゲネエ……………かわいそう。  
デキラレン……………絶対出来ない。メンドシイ……………恥ずかしい。  
ナオス……………修理、かたずける。ヤツガイ……………晩酌。  
ドベ……………びり、最後に。ヨダキイ……………おっくう。  
ニゴジュウ……………降参する。ヒカリ……………出しあい飲食。  
ネブル……………なめる。ケンチョイキ……………一張羅。

大分県を代表する方言に 野津原でも使われている 方言が  
だいぶありました。小藩分裂などで言葉が 入り乱れたよう  
ですが 優しい言葉などで 使い合うのも懐かしいものです。特  
に共通すれば 親近感も加わりますので 方言とは生活用語で  
ありながら 心までも豊かにしてくれます。先人の苦勞継承し  
た生活用語 これがあったから 生き続けたのかも知れませ



# 民話 伝説





## 名月様ん楽しい時間

秋の15夜は空の空気も格別 そんな頃に今年出来た 野菜やら芋やら 実りん栗やらが お月様に供えらるる。手蓑井ん一生升に入れた秋ん実りを美しい 15夜が照らしだしちよる。まっすぐに炎が燃えちよる ローソクん灯りん 影が仄かに揺れよる。とそんな時じゃった。忍び足ん子どもん 足音が聞こえち来た。

『名月様』ん供えもんぬ 外す時あ誰でんイイチ 遠慮のう貰えるんが今晚だけ。トッテンイイコチナッチョル。忙しゅサデ集めち袋に 入れたかち思うと バタバタつと走る。『こりゃ 静かにせんか』 上級生が小声じ言いながら 激しゅツージ帰った。走っち帰るなあ訳がある。後からハズシ来た子どもが 待っちよるきーでんある。

こん晩な取ってんいいこちも なっちよるが 怪我はすると悪いち言う。じゃき親は出る時にゃ 『コクンナヤ』ち 念ぬ押す。昔しゃどげ言うてん 貧富ん差が多きかったもんじ 地主さんたちが『せめて子どもたちにゃ 平等ん食べもん 楽しみう味わせてえ 思いやり』が あったんじゃなかるうか。

地主にしてん小作人が おりゃこす田畑も生かした 作物が植えられ実り 収穫も出来たんじゃき 感謝してん罰は当たらんじゃろっし それによっち又 田畑も喜んじ 出来るし実りも喜ぶこち なっち周り回っち みんなが嬉しい秋になるもん。15夜御月さんも そりゅうこす念じち 子どもん楽しい声が 嬉しかったに違いねえごたる。

『お前どう早えのう まああるかやー』『あるとん 一杯あるきコケンゴツ行けや』 お互いに声かけ合うんも 秋ん楽しい夜でんある。まーるい大けな 御月様。

子どもん楽しい祭りん も一つに『亥の子』祭りがある。秋ん亥の日…年によっち違うが…新しゅ出来た糯米じ ついた餅を子どもに配っち健康を願う行事。素朴なこん行事にゃ いろんな意味もあるごたる。

何ちゅうてん実りに感謝する それが一番じゃろうが そんな取れた土に居候しちよる 害虫を『藁打ち槌』じ 地面ぬ叩いち 追い払うこと。そんな囃子唄は 地方によっち違うが 野津原じゃ二つあっち 野津原地方ん場合は…

祝いましょ…こん屋の《またはこん夜》亥の子 祝わんものは  
鬼生め蛇生め 角生えた子生め エートナ エトナ  
も ひとつおまけに 祝いましょう。

今市じゃ…大黒さんと言う人は 一人で俵ふんばって 2でニコリ笑って 3で杯さしおうて 4で世の中よいように 5ついつでもご蟲貞に 6つ無病息災に 7つなにごとないうに 8つ屋敷を買い広め 9つここに留まって 10でとうとう納まった、ドッサリ祝うちょくれ。

こげなふうに『藁打ち槌』じ 地面ぬ叩くことじ 害虫が退散するき 来年も作がゆう出来るこちなる。

こげな話もあった…大地主さんは 銭も財産もあるんじゃが どうもヤーリ病気しち 困りよった。そげな時巡礼周りん坊さん かる 知恵を授かったもんじゃき それかるは毎年ん暮れに 餅をつくると小作人に『こいさは みんな早めに集まっち 貫いたいから仕事が すんだらそんまま来てほしい』と ふれが回った。

何事かちはじめん内ゝタマガッタが とあかく早めに着飾っち 大地主さんかち 集まるこちなった。



畏まっち座敷に通された 小作人のしどろは 何事が起こるか不安もあるごたる。そうこうしよるうち 地主さんが紋付き羽織姿じ 入っち来たもんじゃき 『こりゃただ事じゃねえど』『ひよいとすりゃ 田畑はもう作らせん』ち どま言うんじゃ あるめーか いらん憶測が飛び回りよった。

『やぁみんなゆう来ち くれたなぁ いつも田畑を作っちくれち 有難くお礼を申します。長い間に考んがえちみたが 私しゃあんまり 皆さんの苦勞を当たり前ち 思いよった』 小作じゃき当たり前ち 皆さんな思うじゃろう じゃがそりゃー違うちゅ事が いったき休んじよるナカメ しみじみ解った。そう言うぬ聞くと 『まぁ随分変わった 悟りが開けた』そげーも思う。

確かに土地は地主さんがんもん じゃがそりゅう働いち 役立つごつ苦勞しよるんな 我々百姓じゃきでんある。となりゃそん手当てをあげるこちなる。まぁ米は自分がんもんになるきそりゃいいわけじゃが ほんな後始末しち 周りん草きりかる畦がくえんごつ守りするんも みんなしよった。

小作は貰うがそれも あてがいにしち納めちもらう あんまりにも欲張るごたる。『そげー思うと何か そん苦勞にお礼をせにゃち 想いちーたわけです』 みんなはタマガッテ 目をパチクリ 『ヨイ雨どま降らにゃいいが』 勝手気ままじゃねえ 嬉しい気持ちがこみ上げち 涙がポトリひとしづく。

『それじまぁコイサは ほんの心ばかりん 土産もシコウシタき ヤウチん人たちにも 持って帰ってほしい』ち こげえ言うもんじゃき 長老が 『そりゃー有難い事で でん小作はこれかるも 作らせてもらいたいのぞ』『そりゃもう是非作っち もらいたいんです。座敷がパット明るくったごたる 今まじ不安な気持ちが一遍に 青空んごつ晴ち コイサは夢んごたる。

『りゃーこげー貰うてんいいん』『子どもたちがのや 喜ぶじゃろう』『カカどま夜が寝れんち 無心ぬ言うど』 賑やかな声が座敷に広がる そりゃもう鶴と亀が 舞い遊ぶごたる風景じゃった。上等んお茶が運ばれ 今まじ食うたことんネエ 羊羹が乗せちやる。『誰かもう羊羹ぬナオシヨンナ』

ソシチ帰りん土産ん入った 風呂敷包みも一つずつ配られた。『これからも 続くかぎり毎年 私ん気持ちじゃき させち貰うき 田畑ん守りは引き続いち どうかお頼み申します』と 言うのと深々と頭をさげた。理屈は成り立ちますなあ 一生懸命作っちくるる そんな苦勞はせめて 年いつべんぐれは お礼を言われてん いいんじゃあるめーかなえ。

帰った土産ん風呂敷包み 中にヤツキタテン 餡子いり餅と 餡は入れちよらんが シイラ餅も入っちょつた。『おとったんが亥の子餅ゃ多いなあ』『じゃろうが これからメ一年くるるんと 済まんことじゃが 真剣働いちよきゃ いい事がある証摺ど。おやじんひげ面もなんか 上品に見えた。

地主が精一杯ん『亥の子餅』 これこそ小作人でん 人間にゃ変わらん それも自分の家ん田畑を 真剣作ってくれる ささやかなお礼のお接待。心から嬉しさがこみあげち 次ん日かるは熱もチットズツ下がり 寝たきり病人が 元気取り戻しち 小作人の家に『お礼回りに』 迎えた人たちも 笑顔じ喜びおうた。

餅は昔かる高貴な食べ物じ 小作人にしちみりゃ 棚からポタ餅じゃつたが そりゅう作ったな 小作人自身でんあった。そりゅう病気うしち寝ちよるまに そげな考えに変わった こん地主ん気持ちんなんと 豊かな変貌じゃろうか。今でんこん風習を守り両者が 仲ゆう土地利用ん成果を あげよるそうな。神様に供えるそれも意義がある じゃがにんげんこそん 元ん神でんある。



亥の子餅行事は 旧暦ん10月に新糯米が 出来たら感謝しち  
する 行事でんある。今んごつん暦なら 10月ん下旬かる11  
月ん中旬頃まじん『亥』の日。田の神様が家に帰ると 言う説も  
ある。が地域によっちゃ それ以外ん方法、内容じする風習も  
あっちどげ言うてん 田んぼや自然に感謝する 元があるよう。

●●●●● 方言説明 ●●●●●

5 P テミイ…手で扱う大きな選別をする農具。名月様のお供え  
はこの大きな物を 利用すれば品もいいき 古く  
かるされる所が多い。ちよる…なっている。イイ  
チ…よいから。イッテン…黙って貰う。ナッチョ  
ル…なっている。ツージ…飛んで。ハズシ…貫い  
に。コクンナヤ…転ばないよう。すりゃこそ…す  
ればこそ。そりゅうこそ…それをこそ。どう…た  
ち。あるかや…ありますか。あるとん…あります  
よ。コケンゴツ…転ばないよう。

6 P じゃろうか…でしょうか。藁打ち槌…藁で作った3, 40  
センチの直経10センチ前後の 藁縄で固め縛っ  
た筒状の叩き槌。こげなふうに…こんなように。  
こげなし…こんなひとたち。ヤーリ…よく。こい  
さー今晚。タマガッチ…吃驚して。

7 P しどろは…ひとたちは。そうこうしよると…そうしている  
と。ひょいとすりゃ…もしかしたら。じゃが…で  
すが。ナカメ…その間に。となりゃ…とすれば。  
あてがいにして…勝手に一方的に。ヨイ…皆さん  
。どま…などは。シコシチョルキ…準備している  
から。ヤウチン…家の人たちにも。でん…でも。

8 P りゃー…まぁー。カカ…奥さん。ナオシヨルナ…しまっ  
ている。ソシチ…そうして。めーかなぁ…と想いま  
す。シイラ…餡の入っていない餅。

8 P オトツタン…父親。メ一年…まい年。これこそ…これこそ  
。チットズリ…少しずつ。じゃが…ですが。

同じような素朴な行事ん 『庚申祭り』もあるが 『日待ち』  
とも言うち 毎月ん19日やら23日なんか 夜更かしじ語り  
あけまじ続き翌朝ん 陽の出を拜んで解散する。これも所によっ  
ち内容 なんかも多種多様じゃが 趣旨は同じようにもある。人  
ん弱さや神仏にすがる 信仰かるあるもんが 多いごたる。

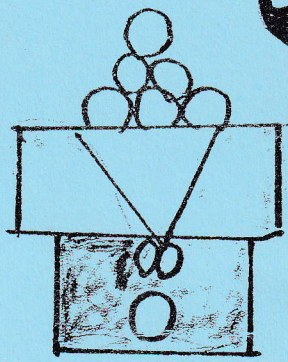
伝承、民話が多いのん 歴史の古い土地柄でんある。そこに先  
人が暮らし苦勞や 楽しい哀樂ん中かる 滲みでた諸々ん行事。  
そこに依存する心境や 果たした快樂などが 折り重なって人は  
生かされ 生きているもの。そんな中に記録に残し それを大事  
に出来る してきた人は幸せかも知れない。

住む以上は不思議な謎もあり 解らない奇跡もある。然しそれ  
によって時には生かされ 時には助けられる 奇妙な世の中だか  
ら 好奇心が掻き立てられる。不思議が解明される 不思議な鍵  
も出来てくるもの。それをクリヤーすると 更に次の難関に挑む  
スリル ダカラ世の中は常に 変化回転の動きが 約束されるの  
だろう。

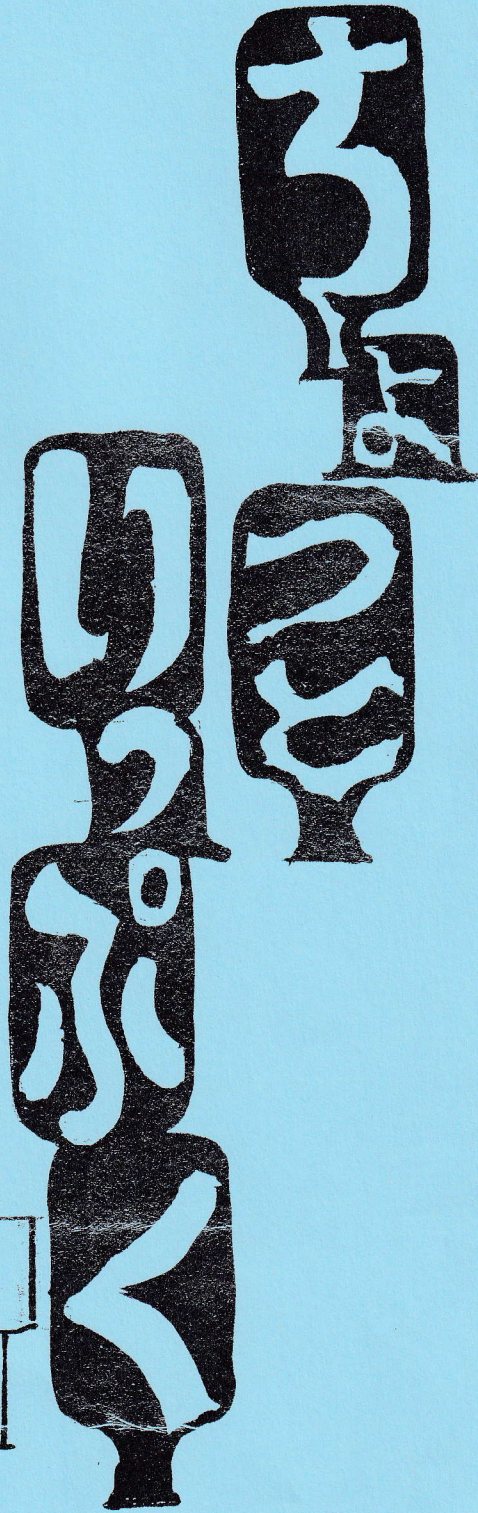
伝承に込められた優しい 人の情愛はかき消すことは 無理で  
あり消さなくても そこには自然と新しい芽が 花が 実りがあ  
るもの。無理にかき消しても 種が残ればやがて又芽が出て 花  
が知らせてくれ 実りが次の世界を作ってくれる。そんな繰り返  
しの中で生かされる 人間は嫌う事なくつき合う 優しい気持ち  
で そっと守り育ててゆきたいもの。

人間は一人では生きられない だから人を頼り人を助ける。そ  
れが出来てこそ 生きている資格もある。たった一度きりの人生  
。





M



昭和35年の『清正公祭り』 想いで回想記から 23日の宵祭りにゃ当番区以外は 『大山車…ダシ』ん引きたてがある。それも24日も引き立つるき 別々ん方向に移動するこちなる。そんな時も間隔うあけながら 7ヶ所ぐれに上演するが 長洲ん『ちんこ芝居』を雇いくうじ 芝居は祭り客を一人占めする。

芝居が終わると囃子方ん子どもたちが 乗りこむまじゃ大太鼓ん囃子 子どもが定位置につくと こんだ子どもん道行き囃子に変わる。子どもん囃子にゃ可憐さや 馴染みん家ん子どもどもま化粧しち出ちよると もうお花が差し出さるる。大山車が止まると囃子ん子どもが 抱え下ろされち そんなカメお花が披露さるる。『幕内ながら花の御礼 右はご当地……』

転換場所じゃ力自慢の コネ棒が大けな役割りゅする。帰り道でん7ヶ所ぐれじ上演 それもひと区切りが いい場面じ終わるもんじゃき 又そんな流れに乗っちチーチ行く。そんな波がぐあゆう移動するき 大勢がつれのうち来る。押しかける子どもん太鼓山、そげない頃う見計ろうち こんだ御輿も近づいた。

『御輿がきたど』大けな声が 聞こえたち思うとシャシャシャと 威勢んいい声とともに 御輿がご神灯にキラリ光っち こっち向こうち高張り提灯が先導する。側まじくると舞台の芝居もチョイト休止しち待つ。ワッショイワッショウ 追われる娘たちに魅力があるき 御輿も動きが早え見せ場。若さが爆発するけど そんな楽しみじ盆にゃ帰らんでん 祭りにカエル帰るん 昔も今も変わらん故郷ん祭り風情。

子どもん太鼓山同志が喧嘩する 酔った勢いん大人がセンショ加勢する。それも祭りならではん騒動。中に大人がはいると いったんなかめ一かチョチヨノチョン。呼ばずに来るんが祭り客たようまゝ言うたもんじゃが むげに断りも出来ん世の中ん仕組み。



御輿ん立ち寄りにゃ 座敷にゴザを敷いち そんまま担いじ上  
っち据ゆる。神職が祝詞をあげち 担ぎ手が奪い合うごつ 次に  
走り出す。御輿のお供は太鼓山3台 それぞれに練習した渡りん  
拍子ゃ はね太鼓拍子なんかが 懸命に吹き鳴らすと 好きな人  
ども太鼓んヤカマシイ音にも 目もくれんじ笛ん妙味に 惚れこ  
んじょつた。

太鼓山を脇に寄するとこんだ 御輿が大山にあぐる 見せ場が  
やんがち始まる。怖いもの見たさたぁ ゆう言うたもんじ側は  
危ねえけんど見るタイミングは そこが一番じゃき 避けられん  
。来た 来たど勢いゆう来たが 先棒がチョコットそらすと そ  
ん瞬間に御輿は方向転換する。また離れた とこっちに向かう。  
そげな動きが何回かくり返すと いよいよ上げ場に入る。

多くの祭り客が見守り 盛り上がりが最高潮になった そん時  
じゃつた 一瞬見そこなうごたる瞬時に 御輿がスリと 大山  
車にあがった。物の見事な瞬時の出来事 じゃがそれも長年の技  
と言うか 気持ちの融合がそんな スリル場面の演出をするのか  
。見事なサービス『お接待の優しい技法』。

すべて地区民の心の中から 湧き出るかっての領主であった  
加藤清正公に呈する 長年の優しい心くばりに対する 感謝の祭  
り一年に一度の区内巡幸の お礼ご奉公なのだろう。出費も大き  
いし夏の祭りは作りおきも無理。でもせめてもの真心の 蒸し餅  
ウドンは 情愛の現われでもあろう。

紅白の祭り提灯に照らし出された 祭りの夜はさまざまの余韻  
残して 夜は過ぎち静かに終わった。翌朝には少し涼しさも 肌  
に感じるようなこれからは 秋の農作業に変わって行くが 祭り  
で見る多くの人たちの喜びは これからの暮らしの糧になるので  
は。幸せで健康で又来年も。



★ 戦後ん故郷 《昭和33年…1958》

国土緑化大分運動じ 別府志高湖畔の植樹祭、そんな年じ県下各地じ『干ばつ』被害も多かった。子供ん遊び用具としち フラフープが流行。同じ頃に『抱っこちゃん』の 発売がまた大事じ 売り切れ何かも 出ち親たちう慌てさせた。左腕に抱かれた 黒んぼうん人形 まさに平和到来を思わせた。

町じ『神風タクシー』も横行 早い走りにスリルを 満喫するしもあったが そんな代わり事故もあっち 取締りが厳しゅうなった。1万円札が出たんも こん年じ幣価もチットズツ 高い数字がいるごつなる。収入は多くなつたが 贅沢も浸透しち金さえ 出しゃなんてん 手に入るごつもなつた。

前の年ん5千円札に 続いちこんだ1万円札。次の年じ『岩戸景気』ち 浮かれはじめたごたる。サックドレス流行、ロカビリー旋風、茶色ん髪がそろそろ流行しはじめた。

こん頃ん原村じ 森指導員の指導じ 畜産、養鶏、養豚に力をいれち そんな取り組みが成果をあげ 養鶏は集卵ルート開発じ 1000羽 集卵10万個目標に 第2次産業ん脚光あびた。さらに養豚も 加工に取り組む意気込みは 地域起こしに大きな役割も果たしたよう。

湛水と矢の原を結ぶ道路が 前年の台風じ大きな被害 そりゅう何とかせんと昔ん 殿様街道が泣くちゅう。周辺5戸ん家族が総動員じ雨も風もお構いのう やること2週間 見事に通行が出来て一た道路。32年産の供出米は 見事になった道路を 時んオート三輪車が走る 走る見事に走っち 矢の原倉庫まじ運ぶ。ジープじ被害後ゴトゴト走つた そんな道が何と素晴らしい道に衣替えした人ん力の 見事な事じやつた。

昭和34年《1959》にゃ 漁業保証じ三佐漁業と県が解決。観光てんさい糖工場ん 火入れ式もこん年いあった。砂糖大根かる取る方法が始まっち 真っ白い砂糖が出来よった。NHKとラジオ大分が TV放送を開始する。トキハに初のエスカレーターが設置されち はじめん内ヵ履物う 脱いじ乗るしもあった。

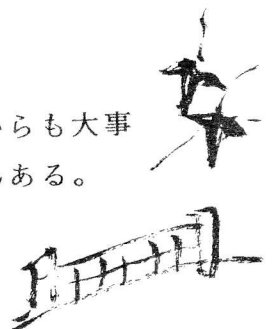
岩戸景気。カミナリ族横行、カーブーム、緑のおばさん勤務。個人営業んタクシーが走り始めた。皇太子と美知子様《現在の天皇皇后》のご成婚も この年にあって祝賀パレードに 多く歓迎の人たちが沿道を 埋めつくした。月賦やチケット制度もこの年に 又メートル法も実施された。

★ 34年にゃ野津原が町制施工じ 『野津原町』になった。初代町長は工藤清彦さん 議長は末松禅勇さん《4月からは 甲斐栄馬さん》。町の広報紙も題字が 宇曾山と七瀬川をバックに 『野津原町だより』となった。その第1号が発行された。それまでは 『野津原村報』じやつた《昭和27年から》

全町に有線放送電話、電話の建設に力を入れる。第1回産業学級卒業式で78人が卒業。腸チビス流行の兆し、桐ブームで反収入が50万円とか……。町助成の事業として 山峰木炭倉庫、山中協同出荷所、上詰集乳所、なんかも完成した。

★ 町制施工当日の 戸数…1737戸。人口…10032人 面積は大分郡一の広さで 七瀬川が中央を西から東に流れ 別府湾に注いじよる 風光明媚な温暖な地帯。気流は東南から西北に流れる 理想的な場所でんある。

先人が苦勞して後世に残した 故郷野津原をこれからも大事に守り 育てち次に続く世代に 継承してえもんでんある。



## 戦後の故郷…昭和35年頃

胡麻鶴、塚野の一部の分村問題が起っち そりゃまぁ 大事じゃつたが 民意投票まじ進んだが 『そこまじゃすんな』 ちゅこちなっち 話合いん分離になった。そん頃ん当初予算な なんと50、059、700じゃつた。牛んセリじ高値が75000円じゃつた。

買うまい飲むまいヤミ酒。成人式は質素に。行政助成ん建造物も出来ち 荷小野農道、下詰協同作業所、原村協同集荷所。福宗下尾協同作業所 何かが出来ち利用者に 大けな役割う果たしちくれた。50人が収容出来る 青年研修所も矢の原に出来た。

所得倍増が叫ばれたんも こん頃じ三種類ん神器とん言う 電機冷蔵庫、カラーテレビ、マイカー、が飛ぶごつ売れち 500万円当選ん宝くじも売り出された。インスタント時代にも入り 田んぼんくろじ 『コーヒー飲まん』 『よばりゅうか』 なんと即席インスタントコーヒー……。

『誰よりも君を愛す』『哀愁波止場』 なんかが流行発売。今市小学校増築工事完成、野津原中学校南側西4教室完成。

天皇皇后陛下ご夫妻に 男子ご誕生《現在の皇太子》。ハイライト発売。婦人警官復活。戦後15年めざましい復興振りに。

矢の原研修所からん眺望は 素晴らしいもんじゃき 老人会ん人たちん利用が多うじ 申し込みが殺到しよった。自然の山が絵のごたる『秋葉山』ここにゃ 忠魂碑もあるが 南にあるコンメエ山とまこち ゆう似合うもんじゃき 『夫婦山』はドケーナち言いよったもんじゃ。先人が大事にしち来た 自然なこれかるも護っち 行きたいもんでんある。

昭和36年になると 故郷ん様相もだんだん変わっち 目を見はるごたるようにもなった。

こん頃ん東部小学校ん生徒が 518人12学級じ教師16人分校も1学級じゃった。

中部小学校が生徒505人 教師16人14学級 分校2学級じゃった。

西部小学校 生徒145人 教師8人5学級じゃった。

今市小学校が 生徒354人 教師13人学級が11学級じゃった。

大田と今畑行きバスん運行が 始まっち今畑行きは 福宗經由ん便利がゆうなった。こん頃ゆう話しにでるんが 『貯金とケチは同じじゃねえ』 そりゃもうソウジャケンド ドウヤラ貯金するしゃ ケチンボウち言う意味んごたる。が人かる言わるるぐれせんと 銭は蓄らんもんじゃ。

じゃがセット貯金するしでん ケチでん何でんねえ サバサバしち美しい銭ん 使いかとうするしもあった。物は言い様でんあるし口お聞きようでんあるき 人ん口にゃ戸は立てられん…し言うぬ一言わせんたお言えめ一き。『そげーケチクセーこつ言わんじ…』ちまお 納まるんじゃなからうか。

話しゃどこまじじゃったかなお そうそう銭とケチじゃな…『けちカチオモウタラ 利子なんかいらんで 使うちよきな』さばさばした 合づちに火が出る 思いじゃつたち言う。そげなふうにあるき めって口すりゃ損する。言うた言葉と時間な 戻っちゃこんきな。

ともかく景気がゆうなっち 戦後15年なんか 嘘んごたる時がスラスラスラっと 流れち行くごたるな。



あれから15年が過ぎたと 戦後の混乱期を思いで一ち 今ん世相がどんくれ平和か 幸せん時代になっち嬉しいもんじゃ。金回りもゆうなった 電化製品がどこでん 並うじょるんも景気がゆうなった証拠。引き上げ復員しそげなしが結婚しち 子供が出来ちそれが学校に行きよる。

農家台帳ん補充調査があつた。野津原にあつた高校じ季節保育所ん開設。そげな環境が続く中じ 脱穀機がそろそろ農家を 狙い始めたごたる。田植えもまゝ手植えじゃが 正常植えじ『田の草取り機械』が ここでん働き者になっちよる。畝ん中に陽が入るごつ培土機を 取り入れた農家もあつた。

原村ん寺門地域が共同作業に 踏み切っち成人が全員 そんな作業に従事しち朝7時かる 夕方6時まじ雑穀、耕うんの仕事。月ん十五日は農休日にしち 学習活動なんかに当てよつた。学校にゃ子ども会が次々に出来ち 家庭と社会と学校が連携する。農家ん機械化は生活向上にも 飛躍的になっちきた。

行政も観光にも力を入れち 集客によつち故郷振興が根づき全国的にも文化生活が地についち 農家んしたちもアカメケタ姿が生き生きとしち 一昔ん農村じゃねえごたる。TVん普及も1000万台を突破した景気 今まで時計変わりと言われた 朝ドラも入って第1作が『娘と私』じゃつた。

坂本九の『上を向いて歩こう』が 流行し流行語に『シームレス、ストッキング』なんか。スキー客も100万人突破。歌謡曲じゃ『君恋し』『ズータラ節』『東京ドドンパ娘』『銀座の恋の物語』 何んか飛ぶごつ売れよつた。映画は『人間の条件』『用心棒』 宝くじじゃ組番に『七福神を取り入れた』 宝くじが発売されち大好評じゃつた。七福神ち聞くとなんか やっぱそりーあやかりてーんが 人情ち言うもんかのう。

県の畜産共進会じ 1等牛『まさみ1号』は 赤星静磨さんが丹精込めた牛。矢の原簡易水道工事が竣工。ソ連のガガーリン少佐が 人類初ん宇宙飛行に成功した。

昭和37年になっち 3月に全国一斉に『無拠出国民福祉年金』が支給されちもう ナニンカニン喜ぶこと。大分郡の社会教育大会が 300人集まっち開催された。農家に脱穀機の売りこみがはじまっち 買いたいような勿体ねえごたる 迷いがそこかしこに 見られよったがそん 気持ちもゆう解る。

野津原町政だよりに 『喪中欠礼』ん広告が 掲載されよるんも時代の 流れを物語っちよる。有線放送電話ん加入率も ゆうなっち第2次工事が進んじ 1日通話も4000件に 伸び上がった。00番00番ち 独特な呼び出し 交換手ん声になしか懐しゅう昔日ん思いがしちくる。

こん年ん牛ん競り値 最高が75000円じゃつた。農機具んしまいこみにゃ『点検整備』を お忘れなくち呼びかけよったが、どうじゃろうか。出した時い錆びちよりゃ こん時ん手抜きじゃろうな。農具は使わるる時ん『ひじい思いより』 サビがチータ時ん辛さが セチナゲーソウナ。

アンポ条約絶対反対運動じ 樺美知子さんが死去した事故。大分臨海工業地帯に 九州石油誘致が決まる。政府が国民所得倍增計画を決定。なんか花ばなしゅうなっち 景気が燃え盛るが一般庶民の懐は果たして どうじゃつたんじゃろうか。一億人口のま総白痴化が 心配さるるんがこん後に 顔を覗かするごつなる。

景気上昇はうれしいけど そこじ油断したんじゃ 根こそぎ無駄に泡になったんじゃ 勿体ねえこちなるかん知れんが。



昭和37年…新産都都市計画に広域都市としち 野津原なんかも入るこちになった。そんな頃ん明りい話しじゃが 小川野かる今市中学校に 通学しよった羽田野誠一さんが 就職しち始めちん月給かる 1000円を長い間世話に 大事に学ぶことが出来たち そんなお礼にち中学校に送っち来た。

そんな今市婦人学級が文部省かる 地域学級としちん委嘱を受け会員が 勉強するこちになった。こっちじゃ町ん保険課が 健康保険事業ん運営が模範じゃち 厚生大臣表彰を受けた。又拠出年金第1号ん吉熊ん人が受給した ニュースがあつたんも こん年じゃつた。野津原んしもケックシャ やりよつたんで。

子ども会研究会があつち 町内ん18子ども会ん リーダーが参加しち 県の文化課佐藤研究会員の 指導による人形劇人形ん作り方なんかを 受け実践に使うこちになった。西部小学校講堂が落成、荷小野農道開通、山峰線舗装完成、杵原林道舗装、『交通安全宣言』もあつた。

野津原町内ん4つん農協も こん年に合併した。宇曾山、辻田堤、が大分県景観百選に選ばれた。こん年にゃ久住山じ遭難が7人死去、2人負傷、痛ましい事故じゃつた。が第2次池田内閣に 西村英一さんが厚生大臣に、綾部健太郎さんが運輸大臣に選ばれた。世界じゃキューバ危機があり、県内じゃ新県庁が完成、別府ロープウエーが開通したんも こん年じゃつた。

米ん収穫高が新記録になつたないが 交通戦争は一段と激しゅうなつち 都会じゃスモッグ公害が やかましゅうなつた。歌は…『小さい秋見つけた』『星くずの街』なんかが 流行した。  
※ 町内にあつた高校が 季節託児所開設で ローカル放送じ放送され それが又全国放送にもなり 高校生の誠実さが 大きく取り上げられちよつた。



- 1 3 P 抱っこちゃん…黒い色の可愛らしい動物が ゴム製品で腕に抱きつくように つくってあり 道行く人たちのファッションみたい 特に子どもたちの 遊びの相手のマスコットだった。品きりに泣く子どもが あったり親も大変だった。チットズツ…少しずつ。ごつも…そのように。せんと…しないと。ちゅう…言う。やること…仕事をして。ゴトゴト…荒い音を。
- 1 4 P 乗るしも…乗る人も。じゃつた…でした。なんかん…なども。じょる…います。
- 1 5 P そりゃまゝ…それはまゝ。そこまじゃすんな…そこまではしなくても。ちゅうこちなった…と言う事になった。ヤミ酒…密造酒で統制の厳しかった時代 こっそり運んで取引する。極端な例は水枕に入れて 運んで米と現物交換。よばりゅうか…いただきます。ドゲーナ…どうですか。
- 1 6 P そりゃもう…それはですね。ケンド…けれども。ぐれ…くらいは。せんと…しないと。じゃが…ですが。口にゃ戸は…まさか人の口まではとめられない。ちょきなゝ…じゆうにして。相づちに火がでる…思わず賛成して收拾がつかなくなる。そげなふうにあるき…そんな気持ちでは。
- 1 7 P どんくれー…どれくらいか。そげなしが…そんな人たちが。正常植え…寸法通りに間隔をあけて植える。アカヌケタ…上品になって。朝ドラ…朝の定時連続放送が当時は 時計の役もしていた。やっぱ…やはり。



18P なっち…なって。ナニンカニン…とにかくいろいろで。ゆうなっち…よくなって。どうじゃろうか…どうでしょう。ひじい…疲れてまいった。チータ…着いた。セチナギー…もう悲しくて情けない。アンポ…安全保証条約の略語。なんかが…なにかが。たんじゃろう…したのでしょう。さるるんか…されるのか。根こそぎ…株ぎり。

19P 明りい…明るい。始めてん…はじめての。こっちじゃ…こちらでは。ケックシャ…結構。じゃ…では。米の収穫新記録…米の出来がよくなったのも 管理や肥料の使い分け 技術の向上 日照時間や温度 などが進歩して 予想以上のできばえだった。ただ量産になると農作物は価格が 壊れて農家の収入は 額面通りに入らない矛盾も多い。やかましゅうなった…厳しくなった。

※※※ 当時の社会背景を唄の世界から見ると こんな唄、歌が流行していました。

35年…潮来花嫁さん、流転、君は海から渡り鳥、おけさ唄えば、達者でな、アンコ可愛いゃ。などが巷にも唄われていた。

36年…北上夜曲、上を向いて歩こう、山男の唄、ソーラン渡り鳥、月のエレジー、恋しているんだもん、りんごの花咲く丘、山のロダリオ、武田節。こんな時代もありました。

37年…若い二人、ひばりの渡り鳥、なみだ船、島育ち、遠くに行きたい、星屑の街、いつでも夢を、赤いハンカチ。こんな唄、歌をきっと楽しんだ そんな思い出が 浮かんだのでは……。

懐かしい言葉のかけあい ちょいと聞いち見て…掛け合い言葉を聞いち…ここまじゃ解るが 見て…こりゃチット難しいんじやなからうか。けんどチャント見きる…つまり動作や発音かる そん心に隠されちよる 意味を創造する まさに天才的な推理力。があるんじや あるめーか。『あるんじや』『あるめーか』と。

ヤンドどう ゆう来たなあ。こげ一天氣がいいと ぼちぼち稲刈りせにゃ ナランコターネエーな。台風がイアンバイニ こんうちヨダツカなあ。じゃけんど東北んごつ 地震やら津波やら おまけに 放射能まじ マキチレーチ もうふんと ショワなからうか ムゲネエナエ。仕事たあ出来ん 牛う飼うてん 売れにゃ困る。ネギも植えてん 放射能は目にシレンキナァ いっぺんワズラウト30年ぐれは オオゴトデ。

お前たちはよく来たな こんなに天氣がよいと そろそろ稲刈りしないと 大丈夫ですか。台風はいい具合に来なかったから 今の間に取り入れが よいのでは。そろそろ準備しようか。

それいしても東北は 地震、津波、それに発電所の放射能漏れ 可愛いそうに。仕事も出来ないし 牛を飼っても売れないと困るし 餌は買わないと 食べさせないわけにも行かない。ネギも植えても放射能は 目ではみえないので とても心配です。いっぺん被害に合うと 30年は心配がつづくとか。

このように並べて見ると 方言でもほぼ解るような 気持ちになるのでは。方言は書いたものなら 上と下と その続きで判断も出来ます。ただ聞く場合は おなじ方言の単語でも 違う場合があるので とても難しく感じるのです。買う、飼う、発音は同じでも意味は 異なりますから それが難しいように 思うのでしょう。そんな方言を先人は 生活用語として長年 使いながら 故郷の為に 努力してくれたのです。





あそび

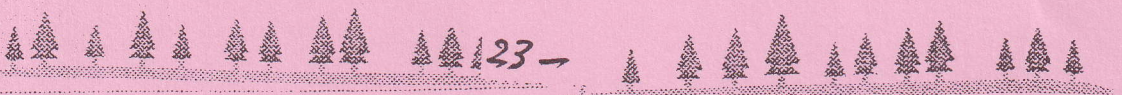
こ

と

も

んせ

界



読み聞かせ 『3つ残した心くばり』

昔ん話しじゃが百姓さんが 突った柿を3つ残しちやる。不思議に思うのもアタリマエ。『なしな』ち聞いてみた。『どげえ思うかのう』 皆んなも意味が解らんき あるひ庄屋さんに聞いてみた。『あれはのう カラスが餌が のうなっち困った時 食べに来てんしょうわねえごつ 残しちやるんじゃそうな。

『なしそげなこつ』 子どもが聞いてみると こげな話しをしてくれた。『カラスは わやくしち困る事もあるが 人間に加勢もしちくるる事も多い』 じゃき 餌がのうなっち ヒモジカロウち思う時に せめても 柿でん食べち 辛抱しよりゃ 又いい事もあるじゃろう。

なんと優しい心くばりか でんそげ一まじセンゼン よかろうにとも思った。じゃろうと思うち くわしい昔話をしち 聞かせた。

大昔しにゃ カラスは旅人ん 道案内もしよった。じゃき食べ物にも不自由せんじ 野山じ暮らしよった。田畑におるネズミやら 蛇なんかを餌にしたり 山じゃ枯れ枝を 踏み折っち枯れた 薪物がいつでん出来る そげな加勢もしよった。色こす黒いが 好きじ黒くなったんじゃ ねえんど。

色きめする時に あんまりコシラエタもんじゃき 遅くなったら 籤に『黒』しかなかった。もんじゃき『黒でんいいで』と 皆んなが嫌いな黒をもらったそうな。じゃきいつも黒いが それでんクジも言わんじ 暮らしよる。神様もそれを見ると ムゲノウナッチ 『お前は聞き訳がいいき 人間に迷惑かれにゃ 何でも食べてよいから』と 言われたそうな。

じゃき何でも食べる 肉でも魚でも 野菜でも果物でも じゃが人間にゃ迷惑かけんごつ しょったようじゃ。

ある秋のことじゃつた。百姓んオジイサンかたん オバアサンが風邪で寝こんでしもうた。『ばあさんショワネエカ』『大丈夫じゃ オジイサン頼みがある』ち 寝床から言う。『どしたな』『お風呂に入ると 温もっちゆう寝れそうじゃが』『わかったほんなすぐ沸かすき』

オジイサンな早速 湯殿に水くみこんで 沸かそうかち思うたら 薪物がねえに気がついた。『しもうた じゃちよいと 山に行って取っちくるか』 オバアサンに言うと 急いで山に入り『神様こうこうじ枯れ物 ちっと貰います』 そう言うのと山の奥に上っちいった。

それを聞いた山のカラスたち 『みんな集まれ オジイサンに枯れ枝を踏み落としちゃれ』 言ったかと思うと 山に寝に帰ったカラスたち 一緒になって枯れ枝を 踏み落としたので あっと思ふまに 沢山の薪が集まった。オジイサンな タマガッチ シモウタガ 『おおきに おおきに』と 流れる涙を拭きながら 急いで束ねると 家に運んで帰り オバアサンが待つ お風呂を沸かしてあげた。

カラスの機転で薪物が いっぱい出来たのを見て 里ん人たちも運ぶ加勢したり こん事を庄屋さんに知らせた。『やっばそうじゃつたな』 嬉しそうに皆んなにも この話しをして これからもカラスと 共に暮らす事の大事さも 付け加えた。オバアサンも元気になって 笑顔がニッコリ。

今年もあっちこっちの 柿の木に実った柿が 3つづつ枝に残してあっち 時たまカラスが 飛んでくるが まだ早いのか 食べなくて 飛んで行く。もしかしたら 熟しになったら あのオバアサンに 『オバアサン 食べたら』と 言うのでは なるうか。

遊びいっち買いに行くぬ 忘れた元吉は どげしゅうかち迷いよったが 明日になると又 よだきゅなる。野津原じゃ1時間なかかる。どげしゅうかち 思いよるとイチベ ヨダキュナッチ 自分が苦を見るこちなる。仲良しでんもし 断われたら どげしゅうか それが先に走っちよる。

『俺 今かる野津原まじ 本買いに行くき 先帰るど』『なんやいまから行くんか』『うん 忘れちよつち ヨダキイケンド』『待て 俺も行くに加勢するき』『や いいんか』『いいど』『じゃー悪いのう』 ほっとしたような 嬉しさが こみあげち 夢じゃなかるうか。

特別仲良しでんねえが こげえあっさり 加勢ち言うちくるると 何かオジイような そげな事は考えんが いい。折角ん友情に疑いなんか 下品な事じゃき。いつまでんそん 自分の考えのおろかさに 恥ずかしくなった。そん友達も 家に帰ってかる 『野津原まじ行くぬ 加勢しちやる』と 断わってかる 来るんじゃろう。

夕暮れはこっちが 早くでん ひとさか下るとすぐ 暮れてしまふツルベオトシ。二人は急ぎ足じ 下り坂はツージ下った。友だちん 優しい気持ちは つーでん それに連れのうち行く今の自分の立場。もしあん時 立場が反対なら なんと返事をしたじゃろうか。知らぬ振りする。しなかったじゃろうか。

20分ほど野津原に来た。本屋のオジサンが 『元気がいいのう 気をつけち帰りよや』『はい』 元気よく返事できたんも 友達が来てくれたからだった。ほっと一息つくと 又今来た道を こんだ上れ坂に ヘモドル。

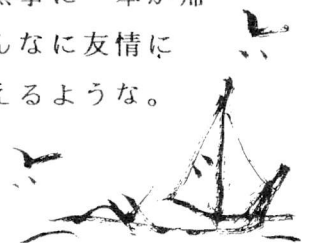
上り坂はひじいけんど こんだは帰り道じゃき 気分な違う。  
そり一友だちん加勢は 予想外ん助け船でんあった。『すまんじ  
ゃつたのや』『そげんこたねーんど 俺かたはの 人が困った時  
にゃ できる加勢はしちよけ』ち ゆうトツタンガ言うんど。じ  
ゃきそりゅう 思いで一たき チョウズよかった。

気さくに説明してくれた 友達ん話にゃ 本当に明るい家庭ん  
姿が 目に浮かんで来るごたる。『困った時にゃ俺も』『そげな  
心配いらんきーの』 笑顔じシャベリナガラ ノボリサカが す  
ぐ暗くなる時間になった。『よかったのや あくまり暗うならん  
じ じゃわねえど』『おおきに ふんとおおきに』

二人の会話がとぎれたり でもこん友情は ただ者じゃない。  
信の気持ちが 通じ合いする時 そこにゃ信頼も 生まれ育つも  
のでんある。薄暗くなった 里の入り口に オトツタンが迎えに  
来ちよつた。『帰ったか お前すまんじやつたのう』 友達に  
オトツタンも 深々と頭下げち 思わず涙がおちた。

『これからも 頼むき』『いいんで 俺どうトギじゃき のや  
元吉』『うん おおきに』それだけ言うと 泣きじゃくった。親  
も嬉しかったんじゃろう 『こん泣けべそ ふんと のや』 友  
だちん肩をたたいて 『おおきに 世話になったのや』 いつん  
なかめーか 真っ暗になっちよつた。

大事に風呂敷包みから だした本を神棚に供えて 元吉は『今  
の自分の正直な気持ちを 申し上げた。『あいつにゃ 何事があ  
ってん恩返ししますから』と。神様もきっと 『これなら約束が  
出来るじゃろう』と 頷いたよう。友達の友情で無事に 本が帰  
った夜は ほのぼのとした夜に変わった。何がこんなに友情に  
変わったんじゃろうか 家庭の暮らしかたが 見えるような。





『汚れた鍬の 嬉しい日』

『今日はとてん嬉しいんじゃわ』 倉庫に並んでカケチャル鍬がナシカ真剣 嬉しそうにニコニコしちよる。日頃はあるまじ洗いモライダサンに 今日はそう言ゃ何か 特別美しいごつピカピカ光りよる。『そりゃヨカッタな』 側にある鍬も一緒に喜ぶ声が 倉庫ん外まじ聞こえよった。

それがなえ 話をしたそん鍬が 嬉しさんあまり 話しちくれた。昨日もイツモンゴツ 使うとチョロット 手先じ泥を落とすと そんままイツモンゴツ ナオシクージ もう終わりになる モンジャキ ヒジイ時にゃ3日も 4日もそんまめ なっち 錆びちーち しまいよった。

使わるる苦勞より 洗わんじそんままナオシ サビが出ちしもうち それんほうがセツかった。じゃが今日は違うちよった。昨日ん使うたままん鍬が ヒョカッタ来たお客さんが 連れち来た小学生ん子どもが 何の気なしに見た それによっぽず 可愛いそうに見えたんじゃろう。

『おばあちゃん これ泥がこんなについて 可愛いそうなの』  
『あらそうね よく気がついた事』 『落としてあげようか』  
『そうね いい事だな………そして洗ってあげたら』 『そうする』 その子どもは 早速 ソデをまくりあげると 水道の水でついた泥を 落としはじめたのです。

『冷たいが いい気持ち』 笑顔がこぼれて 鍬が美しくなると『ご苦勞様 泥がついて 辛かったですよ』 一人言を言いながら 綺麗に泥が落ちて とても輝いているようです。『あゝ よかった もう大丈夫ですよ』 鍬が綺麗になったので 少し古くなった鍬の 柄も洗いました。

挨拶を済ませた おばあちゃんが そんな様子をじっと見て『感心感心』と 頷いてニッコリ笑います。それを見返した子どももヨッポズ 嬉しかったようです。『どう 綺麗になったじゃろう』『本当 よかったね 鍬さんがとても 喜んでいようですよ。』

『ほんと じゃこれで終わりと』 子どもはアッチコッチ見回すと 危なくない場所にそっと おいてニッコリ。何か一つ良いことをした その喜びは自分でも よほど嬉しかったでしょう。『よかったな』と 自分に言い聞かせました。陽の光が眩しく反射して 輝くのがとても美しい。

じっと見詰めていると 鍬が何か囁いていました。『有りがとう こんなに綺麗にして もらって又あしたからも がんばるから』と 聞こえてくるようです。そして鍬は仕事の辛さは 苦労は苦にもならないし 気にもならないが 泥がついてサビが出る その辛さはタマラナイゴツ 切ないとも聞こえました。

きっと おばあちゃんから この話を聞いたんじゃろう 家の座敷に座ると 『今日はありがとうございます』 頭をさげられて こんなふうに行われると 今日のお手伝いはそんなに よい事であったのかと しみじみ思いめぐらせ『あぁやってよかった 気がついても勇気がないと 出来ない事もあるが』と 自分の心にも感謝しました。

使った道具にも命はある 大切に使い 使った後の手入れも 感謝の気持ちじキチンと しておくことが次に 使う時に又頑張ってくる。そんな気がしました。みんな命があり 役目もあるのです。 だから大切にこそ 自分も大事にされる と思いました。



◇◇◇ 方言説明 ◇◇◇

- 23 P なしな…なでですか。どげー…どうです。のうなっち…なくなつて。しよわねえごつ…世話はないように。ちゃるんじゃそうな…そのようにしてあるのです。そげなこつ…そんなことを。わやく…いたずら。じゃき…ですから。ヒモジカロウ…お腹がすいたでしょう。そげまじセンデン…そこまでしなくても。コシラエタ…着飾った。いいで…よいです。クジ…苦情。ムゲノナッチ…可愛いそうになって。しよったようじゃ…していたようです。
- 24 P ショワネェカ…大丈夫ですか。しもうた…しまった。いやちよいと…いいえほんの少し。タマガッチ…吃驚して。やっぱ…やはり。そうじゃつたな…そうでしたか。
- 25 P どげしゅうか…どうしましょうか。よだきゅう…大義でもう。イチベ…いっそう。なんや…なにですか。加勢するき…同伴して。いいんか…よいのですか。いいど…よいから。こげん…こんな。ツルベオトシ…急に早く。ツージ…飛んで。へモドル…元の場所に帰る。
- 26 P こんだ…次には。のや…そうでしょう。そげんこたあねえで…そんな事はないですよ。トツタン…父親。チョウズ…いいあんばいに。ふんと…ほうとに。オトツタン…父親。トギ…ともだち。泣きべそ…よく泣く子供。あいつにゃ…あの人には。
- 27 P じゃね…そうです。カケチャル…掛けてある。ナシカ…なででしょう。モライダサン…もらえなくて。そりゃ…それは。イツモンゴツ…いつものように。ナオシクウジ…納めてしまって。モンジャキ…ものですから。ヒジイ…ひどく疲れる。まめ…ままに。ちーち…ついて。わんじ…使わなくて。ヒヨカット…急に。よっぽず…よほどの。

28P ヨッポズ…よほどの。じゃろう…でしょう。タマラナイゴツ…我慢できないように。切ない…悲しく悔しく。キチント…しっかりと正確に。

方言子どもん世界 いかがでしたか。読み聞かせにも 利用が出来る 話からのものを構成した お年寄りの教訓でもある。

自然界の支えあう心 共存共栄の基本でしょう。誰かが勝手な振り舞い 横暴すればたちまち 誰かが悲しい切ない そんな立場に追いこまれる。

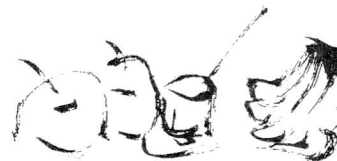
それでは幸せな 社会は国は成り立たない。でも欲が幅を効かせると どこかに無理が出るもの。

使いに行く友達に 加勢する友情は 今すぐに育つものでもない。お互いの信頼、気質、人間性が 集大成になると 自然に友情が湧き出るのでしょう。教えられる事の 多い人生双六。

用具も物こそ言わないが 人並みに取り扱う ごく自然のルールを守れば みんなが苦勞しても 幸せな気持ちが 自然に出るもの。心の豊かさは まさに共通の 生き方の基本でしょう。

亥の子行事が11月の いの日にあるが 子どもの楽しい素朴な行事。藁で作った『ワラウチツチ』で 地面を叩くと害虫が逃げる故事から。別の意味には昔の豪農が 小作人を大事にした 年の暮れの情愛の夢のご褒美。作ってくれる小作人がいるから 田畑が荒れず作物も稔る。だから感謝して心の接待と 貧富のない子どもを平等に扱う。そんな優しい意味もあるよう。

人の心の優しさは恵まれた人の施し 恵まれない人の報いが 年の暮れにご褒美瀬として 頂けるから来るとしも頑張る。そこに人間としての価値観もあるのでは。



墨戲

故郷ん魅力 七瀬川ん流れと共に 住み慣れた野津原んしゃ  
古い歴史と ツレノウチ暮らすなかめ いろいろ  
んな生活ん知恵が 身に染みち一た。じゃき繰り替えさるる 毎年  
が何か心は楽しいき 今年もサカシカッタ自分に やうちに感謝し  
ち過ごせるごたる。

いのちきじゃ苦労は付き物ん 働くなあ自分がん為 やうちん為  
そしち『はたんし』ん為。じゃき昔かる『はたを楽にする』 こち  
なっちツマリヤ 自分も楽になる。そげ一思うと字はマコチ ゆう  
出来ちよる。『はたをにくむ』な 『はたんしゅに 苦労さする』  
こちつらなる。

日本人の食後にゃ 欠かせんのが漬け物。漬け物ちゅうてん ケ  
ックシャ多い。年中食うもんじゃ タクワン、ハクサイ、タカナ、  
ナンカハ 代表格じゃろう。畑ん隅にでん捨て植えたんでん ち  
よこっとそん気がありゃ 漬け物んに早代わりする。生活ん知恵じ  
ゃろうがそこが 人間のいい所か 無駄にせんもん。

おなじ大根でん使いよう 使い方じゃ呼び名も 味わいも違うん  
がなにしてん 魅力じゃろうなあ。あん真っ白んスタイルじゃ 心  
引き付くる魅力が 元々あるんじゃろうが 手を加えたそん後は  
見かた味わいまじ違うき まさに夢ロマン物語。簡単に浸けちすぐ  
食うんが 『浅漬け』 押しを効かせた『たくわん漬け』 味噌に  
つけ込むと『味噌漬け』 醤油に漬けたり 酢と仲良しにすりゃ  
『醤油漬け』『酢漬け』ちなる。

干しち水に戻しち 酢漬けにすりゃ 『はりはり漬け』『干し漬  
け』 まあ呼びかたも 好みならネーミングも いろいろかいり。  
じゃき面白うじ愛敬もあっち なんか食欲も誘われる。不思議な心  
魅かるる魔法ん手芸。『漬け物ん褒むるもんじゃねえ』ち 禁句ち  
言いよったが こりゃ理屈が合わんごたる。

『あなたかたん漬け物ぁ なかなかウメーナァ』ち 皆んなかる言わるるき 『実はなぁ』ち 作る具合を説明した。それにゃまだ年端もいかん 娘ん特技があつたぬ 説明した。それがまぁ人気になっちソコラコンゲに 広がっち とうとう嫁に希望者も出たそうな。

ところが こん一人娘じゃき 無理ち解るとコンダ 婿志望が又多うなった。けんどそりゃ無理な話 申し込んでも話が崩るるし 不幸が出来上がる。お互いが困るんじゃが それでん無理う通してえんが世の常。強引に連れ去りかかったもんじゃき 漬け物は漬けんち 言いであた。

あげウメー漬け物う もう食えんのかち思うと 何かいい方法はネーモンカチ 長老に相談しちみた。それにゃ長老も困ったんじゃが こげな想いが実はあつたんじゃ。みんな生きち行くんじゃき 得意や苦手はあつてん 世の中は『持ちつ持たれつ』が 幸せな社会じゃろう。そりゅう自分さえち 欲張るんは 人を不幸に押しやる 一番ずるい手じゃろう。

皆んなが見習うたり 追いつく事も。どしてん出来んでん そんしやソンシなりん いい面もあるはずじゃ。き そりゅう伸ばす 世の中グアユウ行くはずじゃが。一人だけいい目に合う そげな世の中じゃ また苦勞するしが出来る 人のつまらん嫉妬心かるじゃ 汚れた世の中になるごたる。

こげな話が広まると 反省もするごつなっち 『うめーうめーち言うなぁ 慎むこちなつた』 娘もほつとしたが 皆んなの気持ちちが嬉しゅうなっち 『教えますから覚えて 美味しいもの作っちくれなぁ』 になつたそうな。漬け物がおいしいなぁ……憶測は別としち 幸せん故郷野津原になっち そん娘も婿さんぬ迎えたんと。仄かな恋も 嫉妬もノウナツタごたるし。



ゆう大根漬けん時にゃ 糠を使うがコリー渋柿ん剥いた 皮う干したぬ使うと程いい甘さ 粟ガラを使うと上品な黄色 トウガラシを使うと刺激も あるき妙なる味にしあがる。程ゆう浸かるなチット先じ 寒い風が隙間かる入る。ちっと早めに内緒じ チット味見するにゃ 重石が乗っちょるき 脇ん方に手先う入れ ホジクッチ 引張りだす。

コンメーンが手にかかるき 冷てえぬ早う引き抜くと ヘエもう手先が赤うなりよる。が特有んタクワンの香りが 鼻先う魅了しちくるる。『やった ゆう浸かっちょるど 見よそう』 自分の事んように ニタリ笑う瞬間な 人が漬けたんでん嬉しいもんじ 味見したぬ言われんき いっとき内緒にしちよく。

山に籠もっち修行しよる そげなしは寒空でん せいぜい漬け物が オサイじゃき それがもう 出しだちん旨さは そんな人じねえと解らんかん知れん。漬かりだちん新しいんな ほかにゃ何もいらんごつ 旨さが全身に伝わる。生物ん役目を果たす為 出すエネルギーと 添える塩や加役 それに何にも増しち 人ん手の温もり感触が 漬け物うぐあいゆう完成さする。

漬け味噌に入れた大根、ニンジン、瓜、タチワケ、ゴボウ、ニガウリ、何かは定盤の材料じゃき 干し加減 塩分濃度 味噌ん辛さ なんかが仕上がりに 大けな役割う果たしよる。それにどげ一言うてん 人の手の温度が 不思議な効果があるごたる。時間が掛かってん 後は普通にゃ使われんでん どころん百姓屋でん 長年使う樽が陣取っちょつた。

糠床に入る決まった材料 技術もいるけんども 上品な味ん室に並ぶじゃろう。即席なら1日じ食べらるる つわものもあっち『お茶受けにどまドウイイカ』 あん評判の娘も得意じゃつた。きショノマレタンカ 羨ましい 口水ん垂るるごたる話。



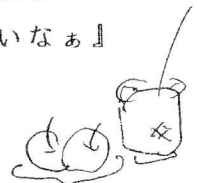
タチワケン口障り ニンジンの感触 こげんな味噌漬独特ん  
仕上がり。握り飯に添えち 竹ん皮に包んだ弁当は 旅する人  
にゃ欠かせん食べもん。竹の皮をそっと開くと プーンと鼻に  
知らせる 人ん情け味が 全身を駆け巡る。白い飯に仄かにちい  
た 色と香りが人情を そっと囁きかけてんくるる。

梅漬け ラッキョウ漬け 焼酎漬け 果樹漬け 多少ん技術は  
いるけど 季節を感じさせち 味わう刹那に自然と 人が連帯  
する世の中の あり方を教えちくるるよう。人間の勝手気ままな  
事じ 自然を我が物顔に するんはまさに犯罪にも等しい、極悪  
非道と思わるる。共存しちこす幸せは 満喫出来るもん。

自然の中でん漬け物は くり返されちよるんがある。虫が集ま  
る樹液でん 酸化する植物でん 漬け物ん一種でんある。古い昔  
にゃ酒も自然発酵した 水が発見されたかるこす 酒造りも手が  
けたごたる。今じゃきこすお祝なんか 神仏にと言うけど 元  
は自然の営みによっち 出来た自然えの還元物。

野津原でんおそらく 山野に自然発酵した 昔ん夢やロマンが  
いぶいち 頂いたもんじゃろうが いつんなかめ一か独占する。  
そこに不合理な社会ん 歪みが生じちしまう。無理をすりゃ道理  
がよそ向く。がこれじゃ楽しい世の中 難しい問題だらけにも。  
住みいい世間になるにゃ 不合理は許されん事。お互いが心ん成  
長する 心が豊かになる そこに平和も成り立つごたる。

『あん時ん娘さん もう子どもも大きゅうた』『へえもう60  
過ぎたで』『りゃーまゝ ほんな漬け物もう しよられんな』  
『それがまゝ めえ年漬けよるんと』『たっしゃじゃったきなえ  
』 漬けもんの味あやっぱ』『シャキットしちよるち 言わるる  
んと』『ウメー漬けもんが 出来るんじゃな』 話ゃ途切れん  
茶でんよばりゅうか『りゃーお茶おけん漬けもん嬉しいなあ』



★★★『灯りと野津原』★★★

野津原に電気がちーたんな ワリカシャ早かった。なんさま辻原  
ん高崎さんやら 矢の原、原村んシドウガ やろうえち言うんが  
うまい具合に火を点したこちなる。大正10年《1921》にゃ  
電気を九州水力電気かる 買うこちなっち 矢の原に会社を作り  
電線ぬアンゲコンゲ引き 諏訪村全部にする予定じゃつた。

じゃが電線ぬ引くにあ 大けなこと銭がいるもんじゃき とにか  
く便利んいい場所かる 始まった。発電所かるは大田、矢の原、辻  
原、原村、こげな周辺に引っ張った。『あげな線の中うドゲシチ  
ススムンジャロウカ』 『目にゃ見えめえかなあ』 『ピカッ光  
るらしいき オジイデ』

それまじん灯りちゃ せいぜいランプが思い出す。ホヤを磨いち  
よかにゃ 煤がちーちよると暗うじ ドンコンナラン。石油も買う  
ちょかにゃ サァちゅうとき間に合わん。『石油こぼすなや 手が  
クソーナルド』 ソレデン ぱっと灯くと明りいき 『わあ昼間ん  
ごたる』ち 言うぐれ明るかった。

それまじゃカンチョロがあった。ローソクも まっと前はコエマ  
ツに 火を点しよったんと。行灯なんかもあったが こりゃまあ銭  
ん多い家んことじ 一般庶民にゃもう カンチョロ。ローソク、そ  
れに ランプならもう 由じゃつた。それも一軒に一つが 飯食い  
場にありゃいいほう。

辻原まじ来た時い権現んしにも 勧められち 野津原ん中心地に  
電気が流れた 初めてじ権現したちも 明るいぬみると 笑顔やっ  
ぱ付けにゃ……ち夢は湧くんじゃが 問題は銭仕事じゃき そうか  
ち簡単や首がふれんじゃつらしい。ヤウチじ相談すりゃもうほしい  
に決まっちゃうが しょわねえかなあ。

じゃが世間の流れたあ 待っちゃくれんもんじゃき やんがち  
諏訪村に広まった。けんど集落ん遠い所 そり家数がすくねえと  
やっぱ あれこれ問題もあつたごたる。じゃけんど自然と そんな  
広がりゃチツトズツじゃ ひろまっち ごく一分所以外は ほぼ  
行き渡って夜にゃ 明りえ時間が過ごせで一た。

戦争時代は灯火完成じ 黒い袋をかぶせたり 電気が見ゆると  
敵に狙われるとか いのちきもヤエコチャなかつた。戦争後でん  
電気が足らんきち 『ローソク送電』ち 言うんが有りよつた。  
薄くれえ電気しかこんき ねえよりゃマシジャガ マァえーと物  
がシルルグレ 鼻うつままれてん解らんごたる。

昭和25年頃《1950》にゃ 国有林じ切り出ししよつた  
仕事ん人たちが住み込みん 浅内に自家発電装置を作っち 発電  
野津原じゃ初ん試みじゃろう。無灯火んしたちゃ 『あっこじ夜  
は過ごすか』ち 冗談言いよつた。水は湧水じ空気は旨い そり  
電気もあっち ラジオも聞かるる。優しい環境じゃつた。

36年《1961》にゃ 無灯火地区じゃつた 今市に風力ん  
発電施設が完成しち 久しぶりん家庭生活が 取り戻せた。こん  
間にでん風に停電したり 台風にゃ2, 3日停電するなんかも  
珍しゅわなかつた。そり一被覆が痛むと 風によっち木の枝が  
そこに触ると漏電したり お守りも大変じゃつたよう。

宇曾山にも電気が上ちよつたが 戦争中に盗難にあっち 電  
線が見事に取られた事件 神仏もご加護がなかつたんか 後悔の  
鉄槌は供出してなかつたのか………悔やまれる。現在は祭典当日  
は 自家発電で賄ちよる。それも素朴な灯りが幻想的で いい  
のかも知れないが。

電気の恩恵は益々 大きゅなちよる。感謝  
と節電な資源保護と 有効利用ん人間の勤めでんあるなあ。



- 3 1 P シャ…人は。ツレノウチ…連れだって。じゃき…ですから。サカシカッタ…元気でした。やうち…家族。いのちきあ…生活は。はたんし…周りの人たち。ツマリヤ…要は。ちゅうてん…と言っても。じゃろうか…でしょうか。したんでん…したのも。そこか…それが。はりはり…歯ざわりのよい感触や音のする漬け物。こりゃ…これは
- 3 2 P あんたかたん…あなたの家の。ウメーナァ…美味しい。にゃ…には。ソコラソング…周りのあちこち。コンダ…こんど。ネーモンカチ…ないものかと。じゃが…ですが。こげな…こんな。そりゅう…それを。どしてん…どうしても。ソンシナリ…その人なりに。グアユウ…うまく。ごたる…ようです。うめーのう…美味しいです。くれなゝ…ください。ノウナッタ…なくなった。
- 3 3 P ホジクル…手探りして。やった…しめた。ちよるど…しています。そげなし…そんな人たち。いらんごつ…不要にった。タチワケ…鮎豆。どげー…どんなに。どこん…どこも。つわもの…強い人。ドウイイカ…とてもよい。ショノマレ…嫉妬されて。
- 3 4 P ちいた…ついた。くるる…もらえる。ちよるんか…しているの。けんど…けれど。なかめーか…間にか。だらけにも…多くなって。へえ…はい。りゃまゝ…それはそれは。しよられん…してない。ウメー…美味しい。よばりゅうか…頂きましょう。
- 3 5 P ちーたんな…ついたのですか。ワリカシャ…わりあいと。なんさま…とにかく。シドゥガ…ひとたちが。やろうえち…しましうと。じゃが…ですが。もんじゃき…ものですから。こげな…こんな。あげな…あんな。ドゲシチ…どうして。ジャロウカ…でしょうか。オジイデ…怖いですよ。ホヤ…電球。ドンコンナラン…どうにもならない。

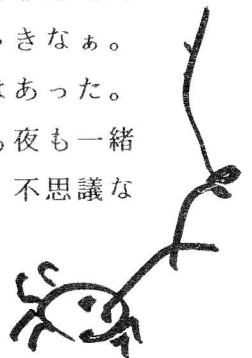
35 P さぁちゅうとき…いざと言う時に。こぼすな…落とさないように。ソレデン…それでも。ごちる…ようです。カンチョロ…鉄製の灯火器具。コエマツ…枯れた松の芯の油分の多いもの。ジャキ…ですから。しよわねえかな…大丈夫ですか。

36 P やんがち…まもなく。けんど…けれども。やっぱ…やはり。じゃけんど…ですが。ズツ…少しながら。黒い袋…灯りが見えないよう黒幕で覆う。ヤエコチャナカッタ…本当に大変だった。ローソク送電…ほんの見える程度の明るさ。ねえよりゃましじゃが…ないよりはまだよいが。シルルクレ…やっと解る程度の。上がっちよったが…上がっていたが。供出しちなかったんか…戦時に金物はすべて抛出してなかったの。おおきゅうなっちよる…大きくなっているが。

★★★★★ ふるさとの魅力 ★★★★★

今じゃから話しても あんまりタマガラン じゃろうが 一汁一菜じゃつてあった 当時ん生活から まるで滲み出たごたる 故郷ん生活手帳を 開いち見る 読む 聞くと ゆうまゝそげな事も出来たんか ちタマガッチシマウ。じゃがソソコロア 当たり前じゃつた 暮らしん知恵でんあった。

漬け物がありゃ一日食いつなぐ 塩は欠かせんけんど あたゝもう生きちよれた。空襲が激しゅうなっち 爆弾な落とさんでん 逃ぐるこたー一番先に そりゃ命あってん 物種じゃきなあ。田んぼがありゃ 米が出来ち野菜年どま 何かかんかはあった。慣れたが 夕ラスミじゃなえ 電気が来たらもう 昼も夜も一緒じゃな。台風じ消えたら もう暗うじ夜が寝れんのと。不思議な人間社会。そりい恵まれ過ぎちよるなえ 今は……。



平成五年

# 玉糸箱



初社  
七瀬川  
小原水樋  
酒井 太郎  
墨

水墨画は酒井太郎さんの作品 続編№14号表紙にも  
水墨画を協力していただきます。お楽しみにお待ちください。

## 仏に捧げるこの身の幸せ

岩山をくりに一だ『ほら穴』に 今は昔ん悲しい物語ん 哀れさを誘うことがあったそうな。悲願をこめち 自分かる入り念仏を唱ゆるが 『灯りが知れんごつなっち 念仏ん声が聞こえんごつなったら 穴をふさいで』ち 言われた弟子たち 3, 7, そしち 21日 過ぎたある日に そん声が聞こえごつ なった。

穴を粘土じ封じ塗り 言われた通りん 作法を済ますと 祠を作っち 懇ろんお経を唱え そん冥福を念じた。まるじ天空にでん おるごたる静けさ。不思議なはず静まり 風もチットン揺れん 空間に一人ん僧は 成仏したんじゃろう。読経する声も 鈴の音もまるじ 隔離されたごたる 世界が浮き彫りされた。

どげな願い 思いがあったんじゃろうか 他人の知る由もねえが よくよくん理由があっちか それとん己の 仏に使える心ん表現 理念としちそう させて行く事に 願望を達したのか 見えない人の心ん 表現が現実に 行われたのだろう。時にゃ騒ぐ風にかき消すごたる 読経が流れち来た 年季ん入った声。

今はそれすら聞けない 土地の人たちの 悩み苦しむ思いが知る由もなかった 僧を追憶しながら ありし日を忍べば 梢に風が鳴っちそん中に 微かに何かを 知らせちいるごたる 耳を傾けたい境地に 誘われそうである。人ん心たぁそうしたもんじゃが 今はそれも空しい 過去ん世界に なっちしもうた。

そば耳に風に乗っち 声が聞こえるごたる 錯覚はやっぱ どげ一言うてん心が そこには残されちよるんか それとん情愛ん深え里ん人たちん 気持ちちがそげなふうに 聞こえちくる気持ちになる 優しい思いかる 湧くんかん知れん。ほんのチョイトん時間でも 心ん中にゃ消えがたい 心が残ちよるんかも。

ひところまじゃ 近所んしたちが 掃除したり道草を 切ったりしち お参りした香り 煙りが漂う場所であつた。年寄りがだれかかれか お参りしち話がいつも いたり来たりするんも 人事じゃねえ 親近感もあつたきじゃろう。『どげな訳じじゃろうかなえ』 ここまじゃ いつも始まるが 続きはいつんナカメェカ 消えちしまふ。

時々ん道草切りゃ 若いしたちが 一散にするき美しゅ 道は磨けちよるが 何年もしよると それも時にゃ ついつい遅れることもあつた。それでん正月 盆にゃお供えしち お参りするき至ん 人たちもみんな サカシュ幸せな日々が 繰り替えされち『仏の里』なんか 言う人もあつた。

じゃがそれも しぜんと遠のく これも宿命かん知れん。異国の地に『即身成仏』する 巡り合わせも それを長年世話した里の人たちも 自然とどこまでが と憶測もはいるんが 人間の自然の感覚でもあろう。山の手入れも 道草切りも 時代の流れには 時として無念さも 湧くものでもある。

祠の周りに丈夫な 板の回廊もあつたが 参りも途絶えちそん面影も 自然と崩壊に結びつく 自然界の流れには どうにもならぬ現実が 現れるものでもある。時代の進歩発展に 呼応するように 忘れられる現実。しかし僧にしてみると それも安住の地と 解釈納得出来るのかも。

小高い山の自然さも 変貌して昔の面影は 全くなくなりつつある今 せめても松や古い 灌木が自然の体系を そとと整えているのは 救われる思い。古い梢に鳴る風の 旋律に僧の気持ち は 和み癒されているのかも。とすれば年月は流れても 変わら安住のここは 幸せな桃源郷かんしれんなあ





△△△△△ 南新四国記念大師堂 △△△△△

白衣を靡かせち田んぼ道を 遍路さんが通ると 春ん息吹きが  
飛んじ来ち一気に 百姓は忙しゅなる。がそれだけに 季節ん変  
わり目が新しい 夢んはじまりにもなる。大正9年に建てられた  
大師堂ん 記念碑は高さが 1丈8尺5寸 幅9尺、重さが3千  
貫ち そんな記録にゃある。

近くん山かる運んだそうな 一枚岩ん石 コロを敷いち当時ん  
力持ちん 男やら女も加勢した。引くのんそれこす 一寸ずりん  
手間がかかち 見ちよるしも一服するぐれん 時間がかかった  
ち言う。じゃがそんな 人間の力ん偉大さは 仏も乗り移ちかる  
ん 移動でんあったんじゃろう。

さかのぼると 明治36年《1903》9月1日んこと。開創  
大供養んあった 南新四国88ヶ所巡拝団が こくう起点にしち  
周辺の地域を 多くん人たちに受け継がれち 明治、大正、昭和  
そしち平成と まゝ1世紀以上ん足跡。1920年に建てられ  
今も当時ん苦勞物語 嬉しい思いで話 悲しい悲憤の話 そげな  
人生ん裏表が ここにゃ凝縮されちよる そげん気もする。

南無大師に般若心経を唱え 香を焚き 紫煙上る門門に 幸せ  
を祈念する 多くん巡拝団の人たち。そこにゃお大師さまに 心  
ん絆を求めち歩く そんな気持ちにお応えしち くるる大師の情愛  
が 苦しむ人に 悲しむ心に そっと元気づけ 勇気を授けち  
遍路道は続くのでんあろう。

雨にぬかるむ道 落ち葉に心地好い感触 湿った落ち葉ん音  
にわか雨に追われ 陽ざしに色黒を気になる日 そげな試練にも  
打ち勝ちながらん 難行苦行は求めに 応じちくるる大師の 心  
ん『お接待』でんあろう。

『今年も歩くかえ』『ありゃ 誰かち思うたら あんたな』  
顔なじみち言うか 遍路仲間ん そんなも ちっと腰が曲がっ  
たが 顔色はいい元気印んごたる。『サカシ方ツタナ』『おお  
きに 忙しいばかりじゃが でん忙しいんが葉かんえ』  
話がもう 自慢話しになり トメドもねえ 大話になりよる。

衣装も新しゅしたんか ちゃんと着飾っち おまけに娘が  
持たせたんか お参銭袋ん美しいこと。『こりゃなあ 孫娘が  
『怪我せんごつ』ち 夜なべに作っちくれた そんな自慢はなし  
ゅく聞くと 『あゝ幸せな家庭じゃなち』 うらやましい。顔  
色んいいのん チョコット薄化粧しちよる。

先達さんがすげ傘を かぶっち来ると 早速大師に読経が。  
天気もいいごたる 『初うちじゃき怪我ん ねえごつ皆んなじ  
連れのうち お願いします』 笑顔が皆んなを 見渡すと 経  
を唱え始めた。般若心経はほとんど 皆んな唱えきるき まず  
ここじ一巻あげましよう。

札所は平坦ばかりじゃねえ 山坂上り下り 川を渡りヌキ  
をくぐり 茂みん深い山道 で一ら道 そりも難行ん場所が  
つづくが これも試練、修行ん道でんある。途中じ心くばりん  
『お接待』も頂き 用足しもせにゃならん。西が曇ったち思う  
と にわか雨んお迎えにもあう。

大師堂じ供養祭があると 遍路は出来んでん ここじ供養し  
ちもらう事も お参りしたごたる 気持ちになれるるき 幸せ  
ん人生でんあろう。お施我鬼もあって 先祖供養や無病息災を  
念ずる 人間の赤裸々な姿は 正直じいい場面でんあろう。弱  
い人間の生涯の一時に 大師に巡り会える空間は 健康であり  
たい欲望も満たしてくれるよう。白衣の靡きは少なくなりつつ  
ある 季節ん風物詩でんある。



時折粉雪が舞いで一た 夕暮れじゃった。あばらや農家門に  
疲れ果てたごたる 見すばらしい老僧が たって経を唱えちよる  
。吹く風はもう肌にも ささるごたる冷たさ それでん立ちつく  
す僧ん 経はやっぱ精魂傾けちよる。一足先に家にもどった 娘  
がヒョイトそん 姿に気がつく と 両手合わせち拌み 経ん終わ  
るぬ待った。

『寒いのに ごくろうさまです』 『これは どうも ありが  
たい事で お邪魔をいたしております』 『寒かったですよ  
どうぞ クドノ前でも 火をおあたりください』 『ご親切に』  
老僧はそん娘ん 言葉に甘えち チヨットダケ 火の側によせち  
もろうた。

外は吹雪になったごたる 風ん音が高鳴り 寒さがよき一なる  
ごたった。『おちゃをどうぞ』 急いじ準備したお茶を 盆にの  
せち差し出した。『ごていねいに ちょうだいいたします』と  
両手を合わせち丁寧に お辞儀をしたぬ見ると 何か高貴な感じ  
が伝わるごたる。

そうこうしよったら 親たちも帰っちきた。迎えに出た娘が  
事の次第を話すと 『そりゃまゝ ゆう気がち一たのう もう暮  
れ前じゃき 泊まってもらや 何もでけんけんどのや』 『じゃ  
なゝ そげなふうに勧めたら』 頷いた娘か中に入ると 『もう  
すぐ日暮れですき 今晚は お泊まりになっち あしたん朝でん  
お発ちになれば 親たちも申しますき』 『それは ご迷惑で  
申しおけないです』 『そんな心配は 何のお構いも出来ませんの  
で』 親たちも道具かたづけ 手足を洗うと入った。

外は粉雪が舞いあがっち 寒さが増しちきたごたる。寒い晩に  
なりそうな。

囲炉裏側にもう遠慮してん かえって気を使わせるちも  
思うたが 言葉に甘えた老僧は 恐縮しながらも 上がらせて  
もらっちゃつた。父親が上がっち 丁寧を迎えん挨拶したき  
老僧も心に染み入ったよう。『お言葉に甘えて 遠慮のう失礼  
申しております』『何もお構いは…』

暖かな囲炉裏の火を囲む 素朴な田舎ん夕暮れ。『旅の途中  
で それとも全国巡礼の』『はい 全国巡礼の旅で 多くの人  
人に お世話をかけ ご厄介になっています』『とんでもない  
ことです 私たちは 百姓以外は何も 出来ない凡人です』  
脇で聞いている娘も 話振りから よほど修行も出来た僧だと  
心に響くもんが あったごたる。

『出来合いの雑炊です』『これは身に染みる 光栄です 仏  
の恵みと感謝して いただきます』『遠慮のう おあがりくだ  
さい』『こん地方は水がないもんじ 米があんまり出来んき  
こげな お口にゃアイマスマイガ』『トンデモ ごだいません  
口に 入れるだけでも ありがたい事です』

話が弾み世間の ありかたなんかも 聞いた夜も更けち行く  
。『今 皆さんの一番 ほしい物は』『こりゃーミョウナ  
クジ言うちしもったなァ』『え なんでしょうか』『いや方言  
じ 今変な愚痴う言うたち 言う事なんです』『でしたか いや  
方言には とても優しい気持ちが こめられています』

『水がいちばんほしいです』 そんな話が僧の 脳裏にはし  
っかり染みついたよう。よく朝早めに出発すると 娘にそっと  
『この先に谷がありますが きっと水が沢山 流れるように  
なるでしょう』『水がですか』 半心半疑じゃつたが 後に  
谷水が多くなったとか もしかしちあん老僧は…とおもてな  
ししてヨカッタノウ。それかるは米も作れだしたとか。



★……………方言説明……………★

39 P くりに一じ…くり抜いて。唱ゆるが…唱えているが。ふさいで…つぶして閉める。まるじ…まるで。でん…でも。チットン…少しも。どげな…どうですか。させて…そのように。じゃが…ですが。やっぱ…やはり。それとん…それとも。ちょるんかん…いるのかも。

40 P ひとこまじ…つい最近まで。したしが…ひとたちが。だれかかれか…いろんな人たちが。いったり来たり…行くやら来るやら。じゃろう…でしょう。どげな…どんな。ナカメーカ…時が過ぎると。サカシュ…元気に。どうにもならん…どうする事も出来ない。とすれば…となると。かんしれん…かもしれない。

41 P そうな…そのようで。コロをしいち…丸太を敷いた上に乗せて。いっすんずり…ほんの少しずつうごかす。こくう…ここを。ながらん…ながらの。

42 P あんたも…あなたも。そんしも…その人も。サカシカッタナ…元気でしたか。おおきに…ありがとうございます。トメどもねえ…止めることもできぬまま。夜なべに…夜の時間に。チョコット…ほんの少し。かぶっち…かぶって。連れのうち…連れだって。ここじ…ここで。ヌキ…トンネル。

43 P で一た…だした。じゃつた…でした。ヒョイトそん…もしかしたらその。クドの…かまどの。おあたり…手や体を暖めて。チョツトダケ…少しの間だけ。ごたる…ようです。ちょうだい…頂きます。そうこうしよったら…そうしている間に。そりゃまあ…それはまあ。チータ…ついた。けんどのや…出来ないけれど。そげな…そんな。でん…でも。

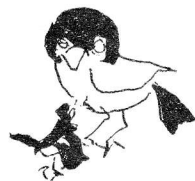
44P してん…しても。もんじ…もので。アイスマイガ…あわないでしょうが。トンデモ…もったいない。いれるだけでん…食べるだけでも。ありがたなんかも…世の移り変わりなんかに。じゃつたが…でしたが。

人ん生きちよらるるんも 神や仏に守られちよるき かん知れんが そげ一思わんしたちもおる。そりゃまぁ勝手じゃき いいけんど 感謝する気持ちは やっぱ持つんがいいんじゃ なかるうか。『おりゃ日ごろかる サカシイキ 神も仏もいらん』 そうかんしれんが 生まれた時にゃ 氏神様に参ったじゃろう。

さいごにゃ 仏様になるじゃろうき 『おりゃそげなこた一知らん』 そげ一言やそれましじ あんまり色気がねえなえ。まぁ素直に世話になっちよきよ 税金もかからんし 錢もくりた一言うめえき。神様は心ん中にゴザルし 仏様は参らんでん 関わりゃねえかん じゃが助けらるる そげな時『いいき』 ちゃまさか言うまいきなえ。

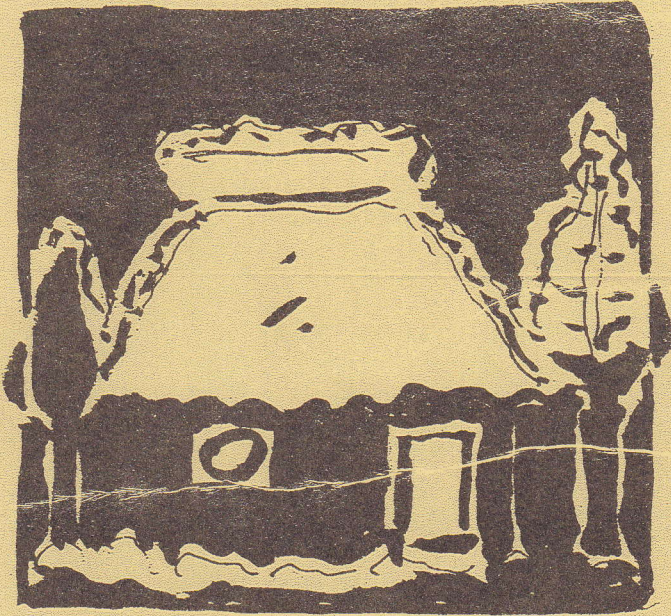
人間ひとりじゃ 生きられんもんじゃわな。家族親戚近所んしに いつも世話になっちよる。それが解るきこす みんなを大事するんじゃこと。守られ助けられ 世話になるきこす 自分の出来るこつうする。それが世渡りち言うもん。『そうかなぁ』 チットふにおてんかなぁ。素直になるんも得するもんで。

★★ 方言説明 ★★ 46P ちよらるるんも…していられるのも。かん…かも。いいけんど…いいけれど。やっぱ…やはり。サカシイキ…元気だから。じゃろうき…でしようから。そげな…そんな。くりた一…おくれとは。いいき…よいです。ふにおてん…納得がいかないが。じゃわな…でしようなぁ。



五助の

高野屋詰り屋詰



## 『松根油が国策に使われた』

五助さんが眠ったと同じごつ 旅ん連れ添いも一眠りした時じゃった。世の中まるじ飛び回るごつ 新しい時代に誘われちよつた。諏訪ん中心に城跡が苔むしち 古い松並木が鬱蒼とあつたもんじゃき マツタケが人ん心う慰めよつた。古い戦場かるこんだ新しい戦争に 物不足う補う松根油を絞出すち 学生が勉強は二の次朝早うかる 山に上っち昨日仕掛けた 油受けに溜まった松ヤニウ集めち回る。

松油ん取れんごたる老木は切り倒し そん根を堀取っち運びで一ち 釜じ蒸すと油が取れた。これが飛行機燃料ん補助役になりよつた。老人子供や女たちは空腹う 堪えあいながら集合したあとは 手わけしちこん山にも入っち来た。繁美城跡にゃわりかたゆう取れたき 皆んなん狙いは一緒じゃつた。

恥じらう年頃ん娘たちじさえ モンペ姿と防空頭巾じ身固め怪我せんごつ 集めち回るが山ん中ん暑さ すり傷かき傷にも苦勞する。工場かる煙りが上がる 油ん匂いがそこらそんげに漂う異様さじゃつた。そしち戦争は負けち平和は甦つた。今もあんな城跡にゃ戦国時代の 亡くなつた多くん魂が なし人間は争い犠牲者が出るんかを 厳しく戒めちよるごたるが。

馬かる起こされち目が覚めた 五助さんと旅ん道つれんしも同じ 夢う見たちタマガッチシモウタ。引き付けられた優しい心に 考えさせられたち言う。こげんこと何かもあるもんじゃち 顔見あわせち『あんまり欲張りすぎたんじゃろう』 後悔もしたもんの 歴史にちょこつと出会うたんも 『いい土産話が出来た』ち。『でーぶん方言も上手になつたな』『五助さんのおかげで またいつか連れのうち歩こうえな』『じゃな』元気しちよりよえ』 と 馬が『わしもおるで』ち言わんばかり嘸いちよる。



こげな時代は今考えると よかったんかん知れん。戦争が長いこと続いた。表面なネーゴタルケンド 本当はもう『勝つんじゃき』ち 止まらんごつなちよる。いんにゃ意地があったんかん。それじガムシャラに 『やれやれになった』んじゃ あるめえか。それでんちーち行きよった。

防空演習 そげな間はまあいいで。竹槍じ敵をついちヤツツクル。漫画んごたる話。男したち皆兵隊じ 戦地に行くもんじゃき 百姓すんな女、年寄り、子ども、んじょう。でん食い繋いじ『勝つこつ信じ』ち そんなはずじゃこと 日清、日露、戦争じゃ勝ったこと。たしかに勝ったが 裏側にゃ人知れん苦勞もあつたごたる。

『ひずかったのう』『もうヒジイナァ イツマジこげんこつ』育ち盛りん娘にしちみりゃ おしろい、紅も塗てゑ年頃。そげな格好見りゃ『ムゲネコサレ』ち 思うんが人情じゃろう。けんど人並みんこつせんと ハダケラレモスル『腹へつたが』『じゃのう トイモはもう エータジャロウ』『ほかに何かあるん』

目が輝やいちよる。『じゃの………何がいいか』『えーふんと じいさん 何があんの』 途端に浮き浮き 明るくなった孫娘に 『若いんじゃき恋ぐれは ふんと…』老いの目にも 涙が滲んだ。『あんのう 何もねえんじゃが ちっと小遣いやろか』 暫くだまっちょつたが 年寄りん身を察すりゃ 甘えられん。

『いいんで 小遣いはじいさん 持っちょらにゃ悪いで』 精いっぱい言うとかグット来たが そりゃ見せとらなかつた。『ほら 隣んしがくれたんど お前たべなあ』『………』『ほら 早う食べにゃみんなが 欲しがると』『おおきに ほんな じいさんと半分こしょうえ』『………』『はい じいさん食べんと 欲しがると』『そうか ふんなチットじいいき』



## 『誰にも出来る 無財の七施』

どげな人にでも そんな気になれば誰でん 出来る世の中ん施しがあるもん。すぐにでも出来る 七つん事を書いてみました。

- 1 眼施…ゲンセ。優しい眼で人に接する…眼は口ほどに物を言う 世のたとえでん。人に優しゅ接するんは即 実行が可能な行為でん 貴方が今朝から気分のすぐれない人と 出会いました。はじめは相手は怪訝な顔で ジロリ見たかも知れんけど じゃが貴方は笑顔で心の中に 優しい思いやりゅ 浮かぶようなら 相手も心がほっとしち 和むんじゃあるまいか。
- 2 和顔悦色施…ワゲンエツジキセ。おだやかな 表情を人に与える事じ 相手もフット 自分もおだやかな気持ちに なることじゃろう。すぐになれんでん 時間がたち ヒョイト日常ン 自分にかえった時 自然な笑顔になっちょると ふり返っち相手ん感化に 心がやっぱ おだやかになっちょるに 気がつくのでは。それが人間の本心と 思います。
- 3 言辞施…ゴンジセ。落ち着いた静かな 言葉じ語るのは 心が離れちいてん ふと振り返っち 見るごたる気持ちに 相手にも伝わるもん。時間がかかってん 落ち着きん言葉は 相手にもそげな 機会を作る手助けにも 役立つもんじ また相手の 言いたいこつう聞く それがでーじな 事でんある。
- 4 身施…シンセ。骨身惜しまず 奉仕するこたゑ 相手に負担ぬかけん 思いやりん 一番手近な方法。が押しつけじのうじ ごく自然体じこす そんな効果もあるもん。現在風ん ボランティアじゃが 一人活動

じするよりゃ 複数じするんが いいかんしれない。奉仕にゃ  
いろいろあるもんじゃき 出来る事ぁしちよけば そんな施しは  
いつかきっと 報いとなっち 帰っちくるもん。

5 心施…シンセ。相手に親切に つくし また感謝ん心は 忘れ  
んがいいことも。ややもすりゃ 親切ん押し売  
りに なったりすると まったくもっち 鼻持  
ちならん醜態。真心が基本じ それが伝わる時 そこに始めち  
効果にもなる。信のない 親切は無意味な 奉仕活動になる。  
親切出来る 今の自分に感謝する そげな気持ちこす 何より  
ん心施じゃろう。

6 床座施…ショウザセ。座席う人に譲るん 車の中、客席の中、  
いずれん場所 でん さりりとした 気持ちの席  
譲りは 相手にもあまり 抵抗ものう 受入れ  
られるもん。執拗に強いのじゃのうじ 平易に 譲る事こそ  
信の 気持ちがこもる 座席譲りと思う。相手にもよるけんど  
遠慮する時ぁ 嫌な顔見せず 区切りをつけるんも 上手な  
手法じゃろう。

7 房舎施…ボウシャセ。来客にゃその身になっち 居心地ゆう  
くつろげる 環境ん整備も。自分が立場になる  
配慮も。相手の考えは 多種多様じゃき それ  
を充分理解 そんな上でのおもてなし。これこそ最良の 居心地  
にも なりそう。心が和み 気持ちが安らぐ それにゃ遠慮ん  
いらん 気分溶けこめる。そげなお接待ん 心くぼりが い  
いんじゃなかるうか。

※ 銭がのうでん こげな七つん 布施は誰でも いつでも どこ  
でん出来る 施し おもてなしん 心んお接待でんある。施し  
があっちこす 報いもあるもんじゃき 常々念ずべしじゃな。



※※※ 方言説明 ※※※

- 47 P たんと…のようで。まるじ…まるで。あったもんじゃき…  
あったものですから。こんだ…次は。ごたる…ようです。  
わりかたゆう…予想以上に。そこらそんげ…周辺に。タマ  
ガッチシモウタ…吃驚してしまう。こげんことなんかも…  
こんな事でも。じゃろう…でしょう。ちょこっと…ほんの  
少し。でーぶん…だいぶ。じゃなあ…ですね。
- 48 P ネーゴタルケンド…ないようですが。いんにゃ…いいえ。  
ちーち…ついて。ヤッツクル…負かす。ひずかった…疲れた。  
こげんこつう…このような事も。ムゲネコサレ…可愛  
いそうに。ハダケラレモスル…仲間はずれに。エータジャ  
ロウ…飽いたじゃろう。じゃのう…でしょう。ふんと…ほ  
んと。あんのう…あのですね。いいんで…よいのです。ほ  
ら…はい 早く。チツトジいいき…少しでよいので。
- 49 P でん…でも。けんど…けれど。なっちよる…なっている。  
かかってん…かかっている。そげな…そんな。でーじな  
…大事な。のうじ…なくて。
- 50 P いいかん…よいかも。もっち…もって。じゃのうじ…では  
なくて。のうでん…なくても。こげな…こんな。

子どもん世界は宝探しごたる。

子どもは気がつくともう何でん食いよる。何でん食うた時代じ  
ゃつた。春先んツバナ、ツバキン蜜、鳥が気がつかんじ残った 柿  
がもう木じ熟れすげち 乾燥しちよる。テンボナシが 甘い食い頃  
になっち 風に揺れちドウカスリャ アエチ落てちよる。手の指う  
広げたような 格好んぬ拾うち子守しよるんが 背中ん子にサイダ  
スト 冷てえ指先じ引きとちち せわしゅ口い入れた。

餅が好きじゃろうか 親がいつも焼いた餅う 子守に持たせち  
オトシかる 出えちゃチギッチやると 口んはと一焼いた炭じ  
黒うしちそれでん ウマインジャロウ 黙っち食いよる。食う間  
はヤッパおとなしい。餅がある間はそれじ 親も手がかからんが  
のうなるとコンダ あられヲ煎っち食わする。

子どもんオトシん中にゃ いつもかつも何かが入っち 賑やかな  
アパートんごたる。トーマメが熟れはじむると 引きむしっち  
パット開くと 中ん実は食うが 外ん皮は上手に豆を使い 人形  
さんぬ作っち手じ操り 踊らすると作りきらんのが 真剣に見ち  
覚ゆるどちする。

子どもは見まねじ作り そりゅう見ちまた改良する。遊び道具  
は自分じ作っちこす価値もある。梅が大きゆるなると ぼちぼち食  
わるる。野草んギシギシや、サトガラ 手当り次第ん食物にゃ  
もう不自由のうあるき 学校ん行き帰りにゃ 何でん腹ん足しに  
もなりよった。

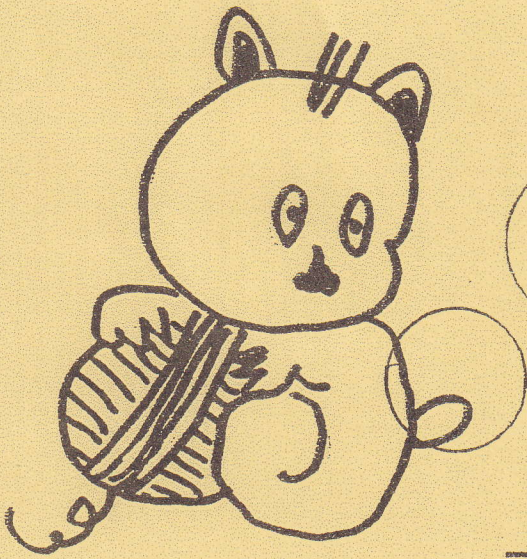
祝い日にゃ袴をはいち行くが 霜解けどま どげもならん も  
う大事じゃつた。泥ばねせんごつ絡げち そすりゃ寒い風がもう  
容赦ねえ 吹き上げち寒いなのんの。足先が冷てえき かがとじ  
足先うあげち歩く。ペンギン見たいな格好ん そんな頃ゃペンギン  
見たこたねえが そげな姿じゃろう。

★ 方言説明 じゃろうか…でしょうか。オトシ…ぼけっと。出  
えちゃ…だしては。はと…周りを。じゃろう…満  
足している。ヤッパ…やはり。コンダ…次は。アラレ…切餅の干  
たものを煎って。いつもかつも…常に。トーマメ…空豆。そりゅう…それを。どま…時は。どげもならん…どうにもならない。

そんなわりにゃ鶏ん卵なんか食うたこた あんまりねえごたる。



# 女性の底力



野津原にはじめに進出した企業が加賀縫製工場じ平成元年  
かるん創業ん契約かる準備が始まったんが昭和63年8月ん  
こと《1988》女性従業員が多数仕事につく画期的な工場  
とあっちゃもう大分まじ出ち働くこたーのうなった。それも  
こん頃ハヤリン洋服じゃき娘時代んしたちん憧れでんある。

次ん年始めかる機械はうごくそん軽やかな音に出来上がる  
ニューフェースん姿にゃ東南アジアにも輸出された。そん工場  
にゃ中国かるん研修生も就職しち母国に残した家族に熱心に  
仕送りもしよった。言葉んハンデーもあつたき地元ん知識吸収  
に研修会もあつち観光地視察説明も聞く企画が作られそん  
ガイド役がそん頃新聞通信部んSが起用された。

勿論通訳が仲介じゃつたがそんしもかって上海じ過ごした  
事もあつち気持ちは通じあえたごたつた。それが巡り合わせじ  
正月祝いに招待されたり次ん研修生と交替しち帰国する時ん  
送別会にもまねかれ名残惜しむ人間同志ん絆に帰る人も送る  
しも再会を約した宿命ん別離でんあつた。

順調な実績が効果もあげち従業員も研修生もともに楽しい  
工場んムードじ盆踊り祭りん見学なんかに人間としてん好誼  
んあり方も勉強できファッションの影武者としち大いに技能  
発揮ん星になつちよつた。研修生も隣の国じ働く仕送りに健康  
じ働ける恵まれた現実ん世の中がいつまでもち念じよつた。

経済景気の差もあつち予想以上に送れる幸せに2年過ぎて  
ん継続したい欲も垣間見る思いが漂うがそれは出来ぬ決まり  
じゃき切なく帰国したしたちも多かつたごたるが人生悲喜  
こもごもが世の常じゃきそりゅう思うとまだまだ日本じゃあ  
恵まれちよたんじゃろう。

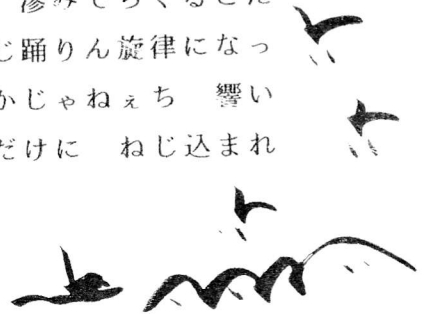
いろいろ働みつめち30年 何か趣味を持とうち 目覚めた  
Mさん 踊りん原点は民踊りん 『輪踊り』ち思うちよる。そ  
こじふと知った松若流 『自分の体じ新舞踊を体験しゅう』ち  
思い立ったち言う。新舞踊は日本舞踊と民踊ん『合いの子』  
じゃが どっちんよさも 取り込んじよる。ち確信も持てた。

戦後に生まれた新舞踊は 『現代性』ち言う時代感覚う 優  
先しちよるち言う。ヒット中ん歌謡曲に たちまち振りう つ  
けち舞台発表をする。つまり伝統的な古典曲あ 短時間にまと  
めち 新古典曲としち 披露するこちなるが それじゃ踊りが  
半ばじちっと悪い。

それじゃのうじ 日本舞踊んもつ 民踊りんもつ伝統ん 技  
や所作を引き継ぐに 食いつきんいい 曲目での稽古によっち  
『きちんとやって行こう』 そげな思いかる 新舞踊は伝統  
舞踊を守るためん 現在舞踊じあるんじゃろう。そん意気込み  
と執念が今も 燃え続けちよるんは 嬉しいことじゃち思う。

手始めに振りつけじゃ 『男の港』『豊後水道』『灯笼船』  
なんか大分ん ゆかりん歌謡曲を すでに舞台にあげた。そん  
後にこっそり 姿見せたんが『七瀬馬子歌』 なんか哀愁が漂  
うんも 身近いかるかふっと 側に寄り添い歌う声に 動く姿  
が故郷ん人情を香らせ 魅せつけちもくるる。

『やおねえんで』『でん頑張っちよりゃ きっといい日もある  
き』『じゃろうかなあ』 気軽に笑う笑顔にゃ 『やっち見  
するき』ち 気構えした優しい心くばりが 滲みでちくるごた  
る。仕事しながらも そん機械ん音がまるじ踊りん旋律になっ  
ち 目に写るんもこん人ん 執念が生はんかじゃねえち 響い  
ちくるごたる。それだけ真心が 素朴な唄だけに ねじ込まれ  
ちよるんかん知れんが。





働く事は周りを豊かにする

『〇〇さん電話です』 地域に一つしかねえ電話が 『継ぎ』ん役目う果たしよったき かかったら放送じ知らせる。セセロシイち言われそうじゃが 皆んな同じ世話になるき ソゲンコツ言うしゃ誰もおらん。ジャケジャネエ何事か 時にゃ側耳たつる。そんくれ世話に徹しちよるき 朝も早え。

もともと大百姓じゃき みんなが朝間しごどん そげな時間に鶏ん世話 ツボ先ん掃除 電話番かるチョコット かきあう品物並べた商いもしよる。『すまんえ 朝うかる』 電話ん呼び出しじ畑に出ちよつたんか 土まみれんままじ ツージ来た。『もしもし待たせたのう』 電話口ん大けな声が ソコラジュウニ響くごたる。

えーち話がすんだんか 『あばんすまんじゃつたなあ よろしゅ申してと』 相手がそげ一言うたんじゃろう 忘れんうち告げちほっと一息ち一た。『何事じゃつたんな』 いらぬ世話じゃが これも世間の情愛じゃろう。立ち入っち聞くんでんねえが これこす心配しちよる気持ちん現れでんある。

『いんげなに 無事今日退院するき ちおおきに言いよった』 急に決まったんか 早く知らせないと又 心配しち病院に行くとそげ一思うと早めに知らせてえんが 心くばりじゃろう。『そうなよかったなあ サカシインガ一番いいなあ』 『おばんも元気じゃなあ』 『なに もう年う取ったで……』

朝ん空気が活気に変わっち 退院連絡と やりとりする人ん心ん明りい 言葉が広がち行くごたる。今日も天気がいいごたる 鶏がコケッコ コケッコッコ どうやら卵生んだごたる。『おう生んだんか おりこうじゃノ』 こん一言が鶏にも 励みになりそうじゃ。人に物に感謝する そげな心くばりが みんなにでーじさるる得人な おばんでんあった。

天気が続いちよる正月明け　もう山ん下刈りに行きよる。一人でんオズワネンカ　傘を横がるいにしち　腰に弁当水筒食うに困らんごつ　テクテク歩くのん早え。若いしゃ宛にせんじ暇さえありゃ　春先じゃ山に行く。下刈りしよると『子や孫ん役に』ち腰も痛うねえんも　ハリコムかるじゃろう。

山んほうじバサバサ響くき　『今日もバアサン来ちよるんか』側ん里道を通る若いしが　立ち止まっち眺めた。奥んほうか姿は見えんが　元気な音は鎌も切る音　自分じ研いじ仕事するんか　腰にさげた砥石も年季が　いっちょるごたる。で一ぶ片へりしちよるが　それがまた年輪でんあろう。

ひさしぶり今日は　早う山かる下りち来た。『ありゃーもうイヌノ』『晩方買い物に連れち行くち　言うき行こうかち思い』『そりゃーまゝ楽しみじゃなゝ』『楽しみどころが錢入り仕事じな』　そげ一言うと大笑いする。どうやら調子のせられち　誘い出されたんじゃろう。でん気分はいいんじゃろう　笑顔がもう。

ヒヨラット町じ出会うと　どうやら今日は娘んかて　出ち来たごたる　『祭りじゃ来りゃいいに』　言われたもんじゃき　知らんふりもされんき　ふだん着じ来ちみたら　あれもこれも加勢をさせられち　『オオタ話じゃねえ』　やかましい声じ　タギリヨル。けんどやっぱウレシイナ　間違いねえごたる。

働く姿は美しいもんじ　ふだん着野良着でん　まこち絵になるだけん　品格はあつたき　なんか憎めん年寄りじゃつた。辛抱するがケチじゃねえんが　人とちがう人間らしさを　持ち合わせた働き者でんあつた。働く…傍を楽にさせる　なんか理屈がゆうわかるごたる。健康じゃき働ける　経済的に恵まれる　心が豊かになると笑顔も　頓知もトワズも出るもん。小柄な風格に人ん苦勞が　ゆう解けるのんな。



5 3 P たんが…たのが。のうなった…なくなった。したちん…人たちの。そんしも…その人も。なんかに…などに。じゃき…ですから。ちよつと…していた。

5 4 P どっちん…どちらの。それじゃのうじ…それではなくて。あるんじゃろう…あるのでしょうか。やおねーんで…大変なのです。でん…でも。じゃろうか…でしょうか。やっち…取り組んで。

5 5 P セロシイ…うるさくて。そうじゃが…そうでしょうが。ソゲンコツ…そんなことを。ジャケジャネエ…だけではない。じゃき…ですから。ツボ先…庭先《農家のツボは広い面積があって 干し物をしたりする》。かきあう…まにあう。ツージ…走って。ソコラジュウ…周辺一体に。じゃろう…そうでしょう。でんねえが…でもないですが。これこそこれこそ。いんげなに…いいえ何です。ち、おおきに…とありがとう。そうな…そうですか。なに…いえ。でん…でも。

5 6 P オズワネエンカ…怖くはないですか。しよると…していると。ハリコムかるじゃろう…精出しているからでしょう。いっちよる…いってます。でーぶ…だいぶ。片へり…片方が減って。イヌンノ…帰りますか。いいんじゃろう…よいのでしょうか。タギリヨル…怒り叫ぶ様。まこち…誠に。トワズ…冗談を。

ツボさき…脳課には物をひろげたり 干したり作業するのに広い場所が必要で 家の広さと同じくらいは よく見かける。刳干し 馬屋小屋の肥やしを出して 積み上げたり多様性もあるので 小さな芝居小屋も出来ていた。

## 戦時に見る女性の底力

最近の戦争でん昭和になっち 長え間外地じ続いちよつたき戦地に 何べんも招集されちゃ行きよった。満洲《現在の中国北部》支那《現在の中国》 そしち大東亜戦争かる 第二次ん世界大戦まじ繰返し 『勝った、勝った』じ 戦死者ん補充がされち しまいにゃ乙種合格、国民兵、補充兵まじ 徴用されち 残ったな年寄り、女、子供だけになった。

若い女ん子は軍需工場に 青紙招集礼状が来る。銃後ん守りち言うち 年寄り女子供は 一生懸命に働き食料増産 国債ん協力ち言うか 半強制的でんあつたが それがお国ん為ん奉公でんあっち 兵隊さんが戦地じ働く そん影じ支えるんが 家におるしん務めでんあつた。

若い嫁さんどま『もう在所に帰りてえ』ち つい愚痴も出るが百姓ん家じゃ ほんところ猫ん手もほしい。ぐれ厳しい明け暮れでんあつた。力仕事が出来ん悔しさ じいさんぬ何かオダテチ 働いてもらうんが一番。そげ一思うとタマサカ ヤミ焼酎売りが来ると すくねえ米をヒスクウト 替えちもうち晩のヤツガイニ じいさんに飲ませた。

ちっとチョロヨウと 足う取られちカヤリソウ。ヤミ焼酎じゃき本当んところ 怪しい作り方しよったんじゃろう。じゃが甘酒がホタッちょキャ ドブ酒になるきまあまあ 毒じゃなかつた訳。チョロリ酔うと いい機嫌じ寝床にズクウダ。嫁ごも時にゃモダエタジャロウガ 切ない胸んうち じいさんにしちみりゃ もう馬方も出るめ一き。

えーと出来た米も供出は厳しいが 『兵隊さんの為で』ち言われると『ほんな3俵よき出すき』と やせ我慢もするプライドはまあ 持ち合わせちよる。

戦争が激しゅうなった 家ん働きては年寄りん じいさん、母親に男ん子 娘がおりゃ ばあさんもでるが こんめ一子だけなら ばあさんが子守がてら 留守番と食う世話ち 言うこちなる。男ん子が牛馬んダカイ 娘がおりゃ ばあさんと湯わかし 食う世話じ それももう貧しい食いもんじゃつた。

米はおおかた供出に出しゃ 残りゃオロイイ米 麦 晩なもう決まった『だんごじる』になる。それでん母親でん ばあさんでん 男しに先に食わせち 子供と後じ食うき 育ち盛りん子供はもう 食いさかりじゃき ほけえ食うもんが ねえんじゃき 腹一つ食わすんな 何でんかんでん 入れた雑炊が一番じゃつた。

『お前たべなァ』 ばあさんが 若嫁ごに勧むると 『うっとわ何でんいいき ばあちゃん食べよ』 お互いにもう 嫁じゃ姑じゃちゃ 言うちよれん時代。しまいにやトイモ ゆがいち飯前にダスト これじ腹ごしらえが出来ち 飯が助かる。じいさんも時にゃ 『お前どう先い 食うがいいど』 ち勧むる。

米がのうなるち 『ちった取っちょかにゃのう』ち 残しちよくんが もう決まりになった。何事があつた時い『米がひとすくいもネエナンカ 恥さらしど』ち じいさんな いつも口癖んごつ言いよつた。トイモが食いつなぐ そうこうしよりゃ 麦も出来るきの。

麦が出来たき いったき『ぼっかり食いじゃのう』 笑いながらそれでん 食うんがあるなァ いいもんじゃ じいさんち ばあさんも苦笑いしよる。若嫁もヒモジイち 思う事もあるけんど 夫が出征しちよりゃ 『無事帰るまじゃ食わんでん』 悲痛な思いじ年寄りしに 頑張っちもらいながら なんとか家を守っちもう2年目が来る。『いつ帰っちくるんじゃろうか』 これも人なみじゃき 辛抱せにゃなるめーが。

58P 招集…戦争などで人手が必要な時に 集める方法で戦時は  
招集礼状《赤紙》で集めた。そしち…そして。しまいにか  
…終わりには。乙種…検査の順位。青紙招集…若い女性の  
戦時招集礼状。おるしん…おる人たちの。猫の手…とにかく  
く人手がほしい深刻さ。ぐれ…くらい。オダテチ…調子に  
乗せて。タマサカ…たまたま。ヒッスクウチ…急いですく  
いあげて。カヤリソウナ…転び倒れそうで。ホタツチョキ  
ャ…そのままにしておく。チョロリ…少し気持ちよく。  
ズリクウダ…入りこんで。馬力も…元気も。えーと…やっ  
と。

59P ダカイ…牛馬の餌やりなどの世話。湯わかし…お風呂沸か  
し。じゃった…でした。オロイイ…悪質な。だんごじる…  
小麦粉を練ったダンゴをいれた汁物で 代用食として戦時  
だけでなく農家は食事の代わりに。豊一つ…腹いっぱい。  
かんでん…いろんな物を入れて。トイモ…甘藷。どう…た  
ちか。らった…少しは。とっちょかにか…取っておかない  
と。ひとすくい…ほどほどの量。ネーナンカ…ないなどと  
は。そうこうしよりゃ…時間が過ぎて行くうちに。ばっかり  
食い…同じものばかりの片寄り食い。ヒモジイチ…空腹  
に感じて。出征…戦地に赴く。じゃろうか…でしょうか。  
じゃき…ですから。なるめーか…なるのではなからうか。

※ 招集礼状《赤紙》…戦地に赴く男の義務だった。青紙招集礼状  
…若い女性に軍需工場などで 働く招集で宿舎に入って そこ  
から工場に通う。乙種の後、補充兵、国民兵などもあって  
兵士補強が厳しくなると そんな順位の人たちもつぎつぎと  
招集されて戦地に赴いた。このようにして戦地に赴き 戦死し  
た人たちもいた。まさに戦争とは悲惨な 顛末でもあった。

宇南山物語 I



## 宇曾山は野津原ん東ん顔

修験者がこくう悟り開く場所にしち 風雪に耐えながら身を神  
仏に曝す 厳しい世界の限界に挑む その様は鬼神も避け雷神も  
立ち止まる 宇宙ん世界でんあろう。標高660メートルは人間の  
生きる最も理想郷ち言う。じゃきここかしこかる 駆け参じ  
る別世界が浮き彫りさるる おかしゅねえ境地でんあろう。

途中かる道連れになった 娘が『親の病気治してえ』 いちず  
な気持ちがイジラシイ。五助さんも話とぎにもなるき 歩幅歩き  
も連れなおるるち 気持ちも揃うた小春日和ん 宇曾さん参り。  
ヨンベン雨に洗われち 鮮やかんみどりが輝く 木木が優しゅう  
迎えちくるる。

これかる4キロん参道は 土ん道 砂利に滑る坂 小石が足ん  
裏をコナシチ 上る醍醐味もまた格別でんある。じっとり滲んだ  
汗に 木木う揺らした爽やかん風 そっと胸元にまじ入っち 何  
か言葉に言えんごたる 気持ちにさせらるるんも 五助さんとん  
道連れかるか。

じわっと目を閉じたら連なる 山を伝わっち来るかんしれん  
天狗がダツタ体に大けな ウチワじ力づけち くるるごたる時い  
ヒョイト我に帰った。蘇った躍動するごたる力が 沸き上がっち  
更に つづら折れん参道う辿っち上る。脳裏をかすめた煩惱は  
まるじかき消すごつ パッと消え去っち 冷とえ風に馴染んだ  
頭ん中がスート 爽やかになった。

『ちったダツタンカナ』『…………』 返事はねえけんど大人ん  
足に 合わせた山登りは ちったコタエタンカ。五助さんも気を  
効かせ『ちょうとヒトヨコイ』『はい』 素直な返事が ダツタ  
証んごつ足う止めた。『大根漬ん話しゅするかのう』 じっと見  
あげた愛くるしい顔。



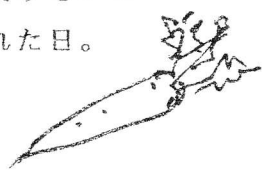
## 『宇曾ん大根漬け』

修験者が峰を渡る足音と 木木をゆらす風の音は 聞き慣れた人にはよいが 慣れない人には異常に耳に入るだろう。一夜の仮寝を求めてワラジを脱いだ 旅人が夜半に目を覚ますと奥の土間で親娘が 『夜なべ仕事』を続けている。山仕事の縄をナウ手は荒れ シワが並び冷たい夜風が隙間を すり抜けて大根の冷たさは 一層厳しいけれど母も娘も 頬赤めて励む姿は 旅人には慈母のように受け取れる。

一膳のカユと手塩皿に盛られた 大根漬けのその色と香りそして 味がこの人たちの情を素直に 伝えてくれた。この旅人には生涯忘れる事のできない 思いだったのだろう。旅立ちの朝に包んでくれた アワのおにぎり飯に 大根漬けの取り合わせ。丁寧な頭を下げると『気をつけて行ってください』 可愛い口もとから弾む声で 差し出してくれた弁当包み。『おん身大切に』と 受け取ると 『うっとうたちは大丈夫 ご機嫌よう』 ……見上げた宇曾の峰に もう修験者の白衣姿が木の間がくれに 眺められる。

旅人は感謝しつつ去った 今も残る『アワガラ』を 入れて漬ける大根漬けの風習は その昔から宇曾の里の味として 生まれ育ったもの。旅人が『トキ』を開いた時 あの母親や娘を忍びながらきつと 宇曾のひとときを思いだすのだろう。優しい人の心にふれた思い出の 一時でもあった。

天狗のようにピラリ飛ぶ松のこずえ 岩陰から咄嗟に現れる姿に 穏やかな故郷があるのも 平和があるからか。人の心の豊かさがあるならば 悪人も病気もないのかも知れない。そこに人間の真心が結びあっているから。大根漬けをかむ音が静かな森をバックに 聞こえてくるような晴れた日。



春彼岸の中日は『自然を讃え生物を慈しむ日』ちも 言われよつち割り切っちゃうが 元元彼岸は信仰に帰依するもん それが神ん祭りじあってんオカシュワネェ。宇曾山祭りも昔しゃ 『いわくら信仰に起因』じゃろうき 頷けんこともねえ。そげな話んほかにも伝承じゃ さらに夢とロマンも あっちそげな夢と、今残っちゃう確証とを交差させち 広げち行くと めまぐるしい今ん世の中じゃ 心休まるごつ過ごす こともできち幸せでんある。

『いろいろあるんじゃなァ』『そうど 面白い事もあったが 夢んごつ広がる仄かん ロマンもいいんじゃねえ』『それで 若い者にゃそげな事じ なんかもちっと 知りてえ気持ちになるき』弾むごたる返事に五助さんも なんか 話しがいがあったごたる。聞き上手たァこげな事じゃろう。

『話してんいいんじゃのう』『いいぐれか』 愛想ゆう笑顔が返ったな いい道連れじゃろう。神神が九州に降った説は 多種多様に伝わっちゃうが 宮崎は天孫降臨じゃき 英彦山が古いち解くしもある。どっちしてん神神にしちみりゃ 九州は暖かじ肥沃じ緑と水にん 恵まれちゃうんが 最大ん理由ち言うしもある。

高い山に居を構えち 諸々ん幸せを念じ 生きる道を開いたとすりゃ 九州連山や湯布鶴見と いっしょにそん内懐に並ぶ 御座岳 精進ヶ岳、宇曾岳、なんかは最も ふさわしい理想郷。食べもんも恵まれちよるとすりゃ もう今日ん起こりは そん頃にあったんじゃあるめーか。

『なるほどなァ そりーしてんまァ いろいろかいろ ゆう知っちゃうるなァ 感心したわ』『そうか ふんとそげ一思うんか』『そげな言い方 始めちん学者みたような』『学者かそりゃよかったけど 先生がたが困るかん 知れんのう』『そげんこた ねーわ 心配せんでん』 やりとりん中に『ゆう勉強する娘じゃのう』ちチラリ見た。

1の鳥居ち言うんがあった。小石が投げあげられち ウマイ具  
合いにそれが乗ると『縁起がいい、運がいい』ち すぐ引かれち  
あげち見る。なかなか上がらんじ ポトリ落ちると悔しいき 又  
1つ握りしめて思いをこめち 投げあげた。こんだ調子ゆう上が  
った 心が休まり気が落ち着いた。

『ありゃ 上がったんか よかったのう 今日あがったな縁が  
あるち 言いよったど』『ふんと 誰が決めるんな』『や そり  
ゃ解らんが神様じゃろう』『どこかじ見よんの』『さぁの一』  
顔見合わせち笑うと 森かる飛び立った小鳥が 一声ピーと鳴い  
た。『ほらみよそう 間違いねえらしいど』

『ふんともう』 追っかけち上る娘が 束ねた黒髪が風に靡き  
娘盛りを 仄かな夢に乗せち すがすがしい。いくつつづら折  
を曲がっち 西がまっぼし見ゆる角に。谷がいくつも重なり 流  
れ水が時折キラリ光る。きっと鮎が銀鱗を跳ねたんか あそこ  
にも人ん営みがあり 苦楽が繰り替えされよるんじゃろう。

§ § 宇曾に行こうか 荒木に出ようか 四辻峠の思案顔 ハ  
七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ §

§ § わしの想いは 宇曾様山の 他に木はない 松ばかり  
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ §

イツンナカメーカ歌いで一た 五助さんがん馬子唄は 向こう  
ん山まじコダマシチ 反っち来た。あどけねーごたる 娘もチッ  
ト知ってちよるもんじゃき つけち唄うぬ聞くと ふんともう  
素朴な唄声が響いち 見ちよるとまるじ 親子んごたるき不<sub>忍</sub>議  
でんある。汗が引いたき ぼちぼち上りじめた。哀愁が脳裏を掠  
むるんか ちょつと沈黙したが 自然の中に絵のごたる 空間が  
青空ん心に シルエッتونごつ 写しだされた。



※※※ 方言説明 ※※※

- 6 1 P こくう…ここを。あろう…あるでしょう。じゃき…ですから。おかしゅねえ…おかしくない。とぎにゃ…友達には。ヨンベ…昨夜。コナシチ…いじめて。ごたる…ようです。さんとん…さんとの。じわっと…ゆっくり。ダッタ…疲れた。くるる…ただける。ヒョイト…急に。スーット…さっと。コタエタンカ…疲れたのか。トヨコイ…一休する。
- 6 2 P ナウ…手でよりあわせる。手塩皿…小さな皿。うっとうたち…私たち。アワガラ…粟の茎など。トキ…食事。ピラリ…とっさに。
- 6 3 P オカシュワネェ…おかしいことはない。そうど…そうですよ。そうで…そうですよ。いいぐれが…適当なのが。どっちにしてん…いずれにしても。しちみりゃ…してみると。あるめ…か…あるのでは。ふんと…ほんと。
- 6 4 P 鳥居に小石…鳥居の上に石を投げ挙げて幸せを念じる。どこかじ…どこかで。ほらみよそう…そらみなさいよ。ほかに木はない…ほかに気持ちはないのです。松ばかり…待つばかりの心境。イツンナカメーカ…いつの間にか。

このように方言には 一見難しい思いもしますが 文字を連ねるとその 真意も優しく甦るようです。先人が使いながら 忙しさのあまり急いで使うと 凝縮することさえあるが それで心が通じるだけに 意味も通じるようになり そのまま使う習慣が 方言かも知れませんが、『おかしゅわ』☞『おかしくは……』『お菓子は…』と間違いそうなのが 前後の話のつながりから 御菓子には 結びつかないでしょう。

日本武尊が九州中南部の 輩を征伐に来て決着もつき 大和に  
派遣かる引き上ぐる時 雲海ん中かるさす陽の光に 映えて浮か  
び上がった御座岳に しばしん想い求めち 憩うた折に眼下に見  
渡せる里の なんと素晴らしいことか。一夜に身を託しち社を  
造り剣を納めち『民安かれと願う』た。

そん剣はのちにあまりん 山登りが多うなったもんじ 障子岳  
に移し近くち参り安いち 喜ぶ声が多うなったが それでん難渡  
もありよったき 更に宇曾岳に移した。現在ん宇曾岳神社ん側に  
奉る 『白鳥社』が そん由緒に関わっちよる。人ん真心が自然  
が人ん 気持ちを心を動かした 物語りでんあろう。

『そげな事があったんな』『そうど 俺が若え頃に聞いたんが  
ちゃんと 奉っちゃうるき間違いねえ 証してんあるな嬉しい』  
『それじこん山はいつ頃かる あったんじゃろうか』 好奇心が  
長げちよるんか 質問がひろがっち 五助さんも本当は嬉しかっ  
た。『まちっと溯らんとの』 どうやら話が続きそうじゃ。

縄文石器時代にも 南北九州ん接点じゃつち 重要な役割う果  
たしよったごたるち 思わるる出土遺跡やら 谷をまたごえち  
そん平坦地あたりん仏像ん中にゃ 過ぎた時代に人々が 食を求  
めち住み着ける 住居ん捜し出しによっち ここがいいとなりゃ  
水が食い物んが オジイ事ァネエカ 何かが一番先になった。

こん土地が往来しながら あんげこんげしち見ち やっぱよか  
ったちへモドッチ 安住ん地にしたんかん知れん。そん土地が人  
う魅きつくるもんが あったんかん知れんき 自然とソキー着く  
んも人情でんあろう。へモドッチよかったち思う 得意顔ん裏に  
ゃ『やっぱ日ごろん行いがいいき』た 言うたかどうか。  
桃源郷が隠されちよつたち 言うとおお袈裟かんしれんが  
辿りちーち こここすまさに別天地じゃろう。



水を求め食物を作り出す　それが生活の必須条件だけに　何は  
さておいてんデージな事。食い物んぬ荒らされんごつ　トンボン  
印が宇曾岳社ん　紋になっちよるんも頷ける。武将がいち早う稲  
づくりゅした　開拓するこち一なっち　大勢ん人ん手がいったが  
常　日頃ん人となりが　こげな時なっち　効果が現るるもん。

野津原一旨い米ができた　それも冷や水じゃが　グアユウ遠回  
りさせち水が温もっち入る。開拓した広い田じゃき　出来もケッ  
シャゆうじタマガッタゴタル。貧な者にも仕事しちもらう　皆ん  
なが喜んじ働き『はたをらくにさする』　まさに傍を楽にする  
そん趣旨にぴったりん言葉。

心が豊かにありゃ笑顔も多い　病気もせんき毎日が楽しい。人  
たゝ支えおうちこす生きらるる。自然神仏にも念じ　それが御利  
益にも結びつく。荒廃したそげなこんめ一　社でん大事にする事  
じ　気持ちも穏やかに　することが楽しいもんじゃき　言境なん  
か全く無用の長物じゃつた。

### 修験場の夜明け

そげな環境ん中じこん山は　修験場としちん役割が　大きゅう  
なっち広がり清楚ん中ん　空間が爽やかに過ぎち行く　境地にな  
ちよつた。女人を禁制にした場所に　一本歯ん下駄を履いち  
錫杖をつく姿はまさに　修験者ん貫禄でんあろう。天狗と鬼の力  
くらべ　知恵比べは早朝から続く。松ん梢を鳴らした風に　誘う  
ような白衣が閃くと中空から　突然現れる異体に対等する　修羅  
の世界。まさに食うか食われるかん　世界でんあろう。

白煙の中から突然襲来　さまざまな技芸が試されると　立ち向  
う試練の早業は生死の瞬間にも　値するような極限の世界。辛う  
じて避けた刹那に次の手が　無情に打ちかかる。

南朝の臣が一堂を創建しち ご本尊を勧請しち後に宇曾山に  
祀り 寺坊を神宮寺とし 宇曾山を奥の院にしち 宇曾神社ち  
呼ぶごつしたそうな。明治に入ちさらに 前記ん白鳥社なん  
かも合祀しち 宇曾岳神社ち呼ぶこつなつた。行ん力と神靈に  
よる 子どもん虫封じにゃ たちどころにの治ったち 遠来ん  
人たちも多ゆう参拝し 4キロん参道ん春秋2期ん 中日にゃ  
人ん列が続いたち言われちよる。

※※※ 方言説明 ※※※

67P さておいてん…それはともかくとして。デーシ…大事  
。されんごつ…されないように。こち…ことに。い  
ったが…いきましたが。人となりゃ…人間としての心  
意気 信頼など。冷や水じゃが…冷たい水では困るの  
で。グアユー…都合よく。ケックシャ…結構に。タマ  
ガッタゴタル…びっくりしたようで。貧な者…貧しい  
人 心は貧しくなくても 経済的に。せんき…しない  
から。そげなこげな…いろんな事があるので。女人禁  
制…修行の場であるので女性の立入りを禁止していた  
。※ よく差別と誤解されがちだが 危険な場所でも  
あり 又修行者が心の動揺などが 影響しても悪いの  
で 決まりをして守っていた。天狗と鬼…架空の相手  
であり修行の心の指導者 反面心の邪気として 敵対  
精神を育てる為に。

68P ごつしたそうな…そのようにしたよう。たちどころに  
…すぐに効果も。中日…彼岸の期間中の真ん中の日。  
ちよる…なっている している ようです。

厳しい修験場としてながく 利用され大戦下には『武運長久』  
を祈願する 参拝も多くて厄よけとしても お参りした。

# 漁樂圖





シザマナンカ…後の有様はなんですか、跡かたづけをして。  
シザマミレン…あとの出来は少し、仕上がりが気にかかる。  
シザチャモユル…はじめは頑張ったが、長続きしないと。  
シザモミヨ…仕上がりの出来は、きちんと仕上がりを期待。  
ジザケゼン…はじめだけでも、最初が肝心で、基本が全て。  
シザリン…したままに、仕掛けたままで、最後まで完成を。  
シシコ…出来るだけで、出来る範囲の、無理はしないよう。  
ジジブリ…じいさんぶった、年よりぶらずとも。  
ジシババ…山野草、じいさんばあさん、年寄りの代名詞。  
シジミユ…ししみ貝、淡水に成長するす貝の一種。

ジシンナコマル…地震は困るが、偽の自身たっぷりは不安。  
シジマンガツ…縮むと貧祖。縮むと利用価値が悪い。  
シジユウヒンジ…常に貧者生活、いつも恵まれなくて。  
シジキワッタ…敷割って、酷い割れ方で、微塵に碎けて。  
シズミバシ…沈下橋、大水の時には沈んで上を流れる。  
シズダンカ…沈んだのですか、沈みましたか。  
シズムリヤ…静めておく、沈めておけば、沈下すれば。  
シズジョル…沈んでいる、沈んでよかった、沈めばよい。  
シズマリヤ…静まって、静かになり始まる、やっと静かに。  
シズデン…沈んでも、沈んだけど、沈んだものの。

シズクタレーチ…滴が流れ落ちる、ずぶ濡れの滴が垂れる。  
シズンジ…沈んで、沈んでしまった、沈んで見えない。  
シズマンガタリヤ…沈まぬようなら、沈まねば発芽が。  
シズンジョケ…沈んでいれば、沈んだのなら大丈夫。  
シゼンジャイイガ…自然体が一番似合う、自然が満点。  
シゼンタ…自然とは、自然があるから、自然に恵まれて。  
シゼンジコス…自然だから、自然に恵まれた人生。  
シソドマイリ…香野菜のふくよかな、殺菌効果も大きくて。  
シソドマイリ…しそをいれた料理の品位、殺菌作用で安心。

し シゾンニナルナ…したな損になるな、したのが儲けならな。  
シゾンナワリー……したのが解ると大事、こっそりにして。  
シソグレマケ…しそは便利だから撒くとよい、使い勝手に。  
ジゾウサンナ……お地藏様、お地藏様をお願いごと。  
シソボクル……しそこなって、うっかり見つかって。  
シタンクチ……陰部の入口、清潔にしておかないと。  
シタンナダマツチョケ…口蓋無用、すんだなら黙っておく。  
シタナラカクス…秘密は漏れぬように、無理はしないこと。  
シタマジャ……したのよかったが、秘密は守らないと。  
シタヤ……すんだのなに、黙って守り通す、漏らさぬこと。

シタンカ……実行したのなら、終わったのなら、完成した。  
シタバタ……慌てまくって、落ち着いたが得策、泰然自若。  
シタカリヤ……したいのなら、相手と相談した上で実行。  
シタアタ…実行の後始末に責任を、事後処理をしっかりと。  
シダッタ……終わったので疲労する、無理は禁物だから。  
シダルノヤ……疲れるまではやりすぎ、程度ものが理想。  
シタキ……したのですか、実行した後は、後の整理も。  
シチミリヤ……してみると、実行すれば満足と不安も残る。  
シチムツカシ……大変難しい問題、予想以上の難点。  
シチキチ……して来てくださて、実行して報告を。

シチョロウガ……していますか、していると思うが。  
シチャルキ……してあげますから、していますから。  
シチョリヤ……していれば、してあげますので。  
シチュウツカエ……人を使いなさい、人をお願いして。  
シチョツテン……していても、しているのですが。  
シチメンドクセ……大変面倒な仕事、困難な仕事の用事。  
シチョカニヤ……しておかないと、しておけば安心する。  
シッチョランクシ……知っていないのに、知ったふりを。  
シッチョラニヤ…知っておかないと、知っていれば得も。

し シツウテ……湿気をくわえないと、もちつきに水分を入れる。  
シッコリャ……知っているのなら。解っていたが、知ってる。  
シツカブリ……知ったふり、知っている様子、見えをはる。  
シツフリユ………しっている素振り、知らないけれど。  
シツクセー………知っているけれどわざと知らぬふり。  
シツョツタン………知っていたのですか、しっているはずと。  
シツジョル………沈んでいました、沈んでいるようで。  
シテコタ………したいことは、したくはないが、しないから。  
シテデン………したくても、したいけれども、我慢している。  
シテホウダイ………したい放題に、わがままかかってにする。

シテカリャ………したいなら、したいようでしたら、したければ。  
シテケンド………したいけれども、したいのを我慢して。  
シテオキャ………しておけば、すましておくと、すましたら。  
シテムリャ………とても無理でしょう。頑固でさせておけば。  
シテトン………したいようだから、したくて待ちきれないよう。  
シテンカ…………したいのですか、したいようですから。  
シテンイイ………してもよいですか、しても構わないですか。  
シトロク………たくさん、いっぱいあるので、とても多くて。  
シトデン………したくても、したいのですん、したいが。  
シトムリャセン………どうにも迷惑で、どうも困ってしまう。

シトビュ…………米4斗いりの俵、昔の標準形の俵。  
シトカッタカ………したくて我慢ができない、したくてたまらぬ。  
シトメンヤツ…………困った人間で、人に迷惑ばかりかけて。  
シトナワガモン…………人の物は自分の物、見境なく勝手に使う。  
シトツキャ…………湿気が多いのなら、湿気を乾燥させないと。  
シトンモンナ…………人の物は区別して、人の物に勝手に触らぬ。  
シトツクゴトツク…………ネズミのいたずらで湿気と雑音に困惑。  
シトンクシ…………人の癖に、人の物がいっているの。  
シトンガンナ…………人の物は区別して、混同しないように注意。

し シテー…同じ言葉でも内容が豊富になるのが 方言の面白さ。  
おなじ単語でいう時 前後につく言葉で意味がガラリ  
変わるもの。 仕事がしたい。話がしたい。旅行がし  
たい。昼寝がしたい。間食がしたい。性交がしたい。  
ものまねがしたい。体操がしたい。などさまざま。

シトージ…この場合でも 前後につく単語で 意味もがらりと  
変わる。仕事が、話が、旅行が、昼寝が、間食が、性  
交が、ものまねが、体操が、なんかに適用される。

し シナカシ…仕事しかけたままに、仕事の途中で、仕事のまま。  
ジナシゴロ……つまらぬ話の流れで、役にもたため話ばかり。  
シナンナ…しなさんな、しないでください、なさないよう。  
シナリュウカ…死なれないような、今死なれては、惜しまれ。  
シナブリャ……品物の価値は、品見の目が効かないと。  
シナモナ……品物の、並んだ品物の目さざめ、よくみないと。  
ジナシヤロウ……役たたずの話など、話の内容がお粗末で。  
ジナシ……とんでもない話に、時間がむだになる話。  
シナー……取り入れは、品物は、死んだのは。  
シナレタモンジャ……死なれたものと悔やむ、苦労した姿。

シナベチ……並べさらして、平たに伸ばして、平らに並べて。  
シニソボクル……死ぬ時期が変わって、悲運な死去。  
ジニナッチ……そのままになって、定着した有様、移動せず。  
シニイソギャ……なで急いで死去、惜しまれる早期の死去。  
シニキレン……悔しい思いの、思い残す事の多い人生。  
ジニチータ……定着してしまった、そのままになって。  
ジニマミルル……土地に融合して、上手に馴染んで。  
ジニナッチ……当たり前になって、融合した気質、世渡り上手。  
ジニイリャ……土に馴染んで、土地の人たちと上手につき合う。  
シニザモ……死去の有様が、人間の終着姿、素直になって。

し シヌタイワン……死ぬなど言わないで、死ぬなど怖い事で。  
シヌコタネード……死ななくてもいいはず、死んで花実が。  
シヌリャ……死んだならば、死んだからとて、死んだ哀れの。  
シノドチ……死ぬつもりで、死んだ気持ちなら何でも。  
シヌナァ……死んだつमोरの覚悟なら、死んだ気持ちが。  
シヌルカチ……死んでなにになるの、死ぬくらいなら何でも。  
シネメーケンド……死ぬないけれど、死ぬ気でやれば出来る。  
ジネントワカル……自然と理解が出来るもの、いずれは理解が。  
シネガワリー……質がわるい人間性、異質な性格が邪魔をする。  
ジネンニシチョケ……自然の成り行きに任せて、いずれ解る。

シネワル……性格が悪いから損をする、異質な人生は悲劇。  
シネット……陰湿な性格で交われない、損な立場の性格人生。  
シノゴノ……いろいろ言わないが得、言過ぎは損をしてしまう。  
ジノヒリーナ……地面の広い、面積が広くて世話が大変。  
シノドキ……取り入れの季節、収穫時期で多様な期間。  
シノブリャ……取り入れ季節が回想される、懐かしい場面追憶。  
シノベタキュ……竹の種類の名前で柔らかな利用価値が多い。  
シノブヤ……竹笛の一種、竹の種類の名前で利用して作った笛。  
シノドマハヨ……取り入れを早くしたら、天気が心配だから。  
シノスルカ……取り入れをしましょうか、天気に左右されて。

シノドキニャ……取り入れ時には、取り入れの忙しい時期。  
シバツクキ……ねっとりした湿度、異常な湿度に悩まされる。  
シバブユ……柴の葉で作った笛、手製の簡単な素朴な笛。  
シバツチョキヤ……束ねておいて、束ねて整理して。  
シバレンコタ……束ねられない事はない、束ねて整理しよう。  
シバインナカイレ……芝居の途中の休憩時間、芝居の一休み。  
シバシバスンナ……ちょこちょこしない、落ち着いて騒がない。  
シバユスルカ……芝居をしますか、芝居をして難を逃れますか。  
シバンナコ……芝の中を散策する、芝には心癒してくれる。

し シビッタ…漏らしてしまった、おもらしで、腹具合が悪いか。  
シビルノウ…漏らしてしまうようで、濡れるのが止まらない。  
シビレチ…痺れて、麻痺したのか、感覚が鈍ってしまう。  
シビルゴタル…漏らしそうな気持ちになって、漏れそうで。  
シビッチ…漏らしてしまった、腹具合がよくないようで。  
シビー…渋い、熟れてないので渋みが多い、口を縛るような。  
シビトグサ…どくたみ、腹痛などに効果、古くからの漢方薬。  
シビツアレ…けちん坊で、欲張りで嫌われ者、けちも程度者。  
シビリ…漏らしたような感触に、おもらし状態、失態の有様。  
シビンナ…漏らさぬよう早めに、どうも漏れそうで。

シブワキャ…遺品の分配、思いでの品なのだが、仲よくね。  
シブウチャ…投網の手入れに効果がある柿渋エキス。  
ジブンナ…自分はどうかの、ちゃんと説明して、誤解のない。  
シブシブカ…渋柿なのですね、渋柿は干し柿に加工すれば。  
シブージ…渋くて、猿蟹合戦の教訓、干し柿にして利用は。  
ジブンカタン…自分の家の、自分の家族の、自分中心の。  
ジブンカト…自分の家の事が大事、自分の家は一番よいもの。  
シブカロート…渋くても利用価値あり、物は使い方で生きる。  
ジブンカテ…自分の家に、よかったらお出でください。  
ジブンドマ…自分はどうかの、模範を示したら、偉さは人が。

シブッテン…遠慮しても、気が進まない時は理由を。  
ジベタアソビ…土の上での遊びなど、土に親しむ生活上手。  
ジベテスワッチ…土にそのまま座って、土の感触に親しむ。  
ジベタンイシュ…土に入っている石、土地に並んだ石。  
シボンジョル…しぼんでしまった、空気が抜けて、枯れた。  
シボクレ…しぼんだ、枯れたのか、咲きすぎたのか。  
シボジョル…しぼんだみすぼらしさ、活気のない生き物。  
シボリャコス…絞ればまだ出る、絞った汗は効果があり。  
シボルリャイイガ…絞れるならよいが、絞って出れば万歳。



し シボッチャレ…しばって差し上げて、しばってあげて、絞る。  
シボッチョケ…絞っておいて、絞ってしまう、絞って仕上げ。  
シボナエチ………しなびて、枯れたように、弱々しくなって。  
シボルンカ………絞って加勢する、絞る手伝いを、絞りますか。  
シボナユリャ…しなびてしまう、ひ弱になって、枯れたよう。  
シボナエチヨル………弱ってしまった、枯れてしまったよう。  
シマツチョルカ………閉まっていますか、閉めたままになって。  
シマイシゴツ………区切りがついた、予定とおりに終わった。  
シマイグレハ………終わりの区切りは、区切りはきちんと。  
シマリャ………閉まれば、占めたのなら、絞めてなら、絞めた。

シマツチ………失敗した、うっかり忘れた、まさかの失態。  
シマエタカ………終わりましたか、終わったようだが、終了か。  
シマウデ…終わりますよ、終わったようで、かたづけますよ。  
シマエンド………終わらないから、区切りがつかないから。  
ジマメジ………地元で取れた豆、古いタネからの収穫、まじめ。  
シマイシゴツ…区切り仕事、請負仕事、限界仕事の割り当て。  
シマイマジ………終わりまで、最後まで、終了までの。  
シマウンナ………終わりますか、収納しますか、格納して。  
シマエタカ…終わりましたか、区切りがついたの、終了した。  
シマオウトン………終わりましたも、終わったのなら。

シマイメートン…終わらなくても、すまなくても、又あした。  
シマリャ…閉まるなら、閉まったのなら、閉まれば、閉めた。  
シマツカカ………絞めましたか、占めたのですか、閉めたなら。  
シマンナイイガ………絞めたのはいいが、閉めたようなら。  
シマリメード………閉まらないでしょう、閉まるかな。  
ジミュウトボセ…灯心に火をつける、油利用の灯明に明りを。  
ジミヤキレタ…灯心がなくなって、準備不足は慌ててしまう。  
シミチータ…染みついて、染みこんで消えない、しみ抜きを。  
シミツタレ………けちんぼう、欲張り性格、強欲は嫌われる。

し シミクージ………染みが酷くなって、染みが消えないほどに。  
シミチュウテン………染みでもいろいろあるから、染みの善悪。  
シムゴタル………染みて痛みが、染みたのはよいが、染みこみ。  
シムナオシイ………染みになるのは勿体ない、染みになって。  
シムリャイテ………閉めすぎると痛む、閉められて満点を越す。  
シムンナマテ………閉めるのは待って、閉められて気絶しそう。  
シムンカ………染みるのですか、染みると痛むのでは。染み堪え。  
シムカン………染みるかもしれないが、染みると痛むかも。  
シムケン………染みるのは効果があるのです、染みて治りが早い。  
シムキ………染みるからすぐ治る、染みたのは効果があった。

シムンナ………染みるのですが、染みるのわ我慢すれば。  
シムホズ………染みるほど治りは早い、染みるのを辛抱して。  
シムグレ………染みるくらいは堪えて、染みてこそ効果がある。  
シムリャ………閉めると何とも言えない優越、閉めたら鍵も。  
シムコタ………染みることは効き目が、染みたのなら治りは早い。  
シムチャ………染みるんですから、染みていれば治るから。  
シムンナイイ………閉めるのなら鍵も、締めてそのままにしばし。  
シメマクッチ………閉めまわして用心する、閉めたなら安心。  
シメシュ………おむつを、おむつの乾燥を、準備に心配なし。  
シメシャ………おむつは大丈夫、おむつの準備は出来たから。

シメリャ………湿ったなら早めに干して、湿気は病気の元。  
シメタラハナスナ………締めたなら放さないよう、占めてわが物に。  
シメテントワン………締めても届かない、なんと奥深いの。  
シメラレチ………占められて嬉しい悲鳴、極限の味わいを。  
シメスグリャ………締め過ぎても苦痛、ほどほどが満点、程度が。  
シメデータ………締めだしたのは極限か、そのまま暫しの空間。  
シメシュー………おむつを敷いて、おむつの効用、おむつの世話。  
シメロウドチ………湿るのも喜びの、湿る程の若さは幸せ人生。  
シメンデン………締めなくてももっと長く、湿るのが幸せな。





# 五助の

高野辰三の伝説



## 『玉せせり』

あん娘はコンメー時かる キヨウじ聞いただけじ すぐに  
覚ゆる得な性格。じゃき大人が聞くとタマガルゴタル そげ  
な事でんユウ知っちよる。ヨンベも遅うまじ しょったんじ  
ゃろう 灯りがツイチョツタ。そっいゃ 若いしたちん出入  
りも多いごたんな 考えようじゃ人間 得かん知れんもん  
じゃ。

済んだ後 ぁチャント すぐかぶせち 人に見らるるんが  
好かんち言うな ぁ それもゆう解る。自分がんもんち決むり  
ゃ ヤッパ人に使わるりゃ好かん。人に使わせとねえ。それ  
も真剣好きとクリヤ 尚更んことじ使うたら ずっとかくす  
見上げたもんじゃ。

そんためか色が黒いのん 手じへネクルきいか 磨けちよ  
るき黒いんが『黒光り』しよる。黒光りんくしい 山は特別  
磨けちよるごたる。娘にしちみると 使い慣れた宝物でん  
あるんじゃろう。そげ一なりゃ ナオンコツ人にゃ 使わせ  
とうねえ 見せとうもねえ気持ち ゆう解る。

『アンタ 上手じゃな ぁ 幾つかる覚えたんな』 顔馴染  
みん信用も出来る 友達かる聞かれたら 『ウットァ 12  
ん時 手が痛うなった時 青年のしが 『こりゅへネクッチ  
見よ ジキユウナルキ』ち 言われたき本当ち思うち いっ  
とき指先じムドムドシヨツタ』『ソシタラ』 こんだ友達が  
目をムイチ 返事を待っちよる。

『うん それじどげなったん』『ちゃーあんた真剣じゃな  
ぁ』 『オゴメン』 顔赤うしち こんしも何か勘違いした  
ごたる。若いしが描いた夢は 若さがあっちフントいい。

『それじアンタも 上手になっちよること』『うっと15ん時えーと覚えたけんど ドンナきな』『そりやぁガイト変わらんがえー』『そげんこた あるめーで 手裁きが違ふこと』  
『相手があるき そりゅう考えちよきぁ』『相手がなえ やっばサスガに違ふなぁ』

前もっち『今から始むるで』ち『気持ちゅ伝ゆるんもな』  
『りゃータマガッタな そげーするんじゃな』そしち相手ん『何を思う 聞きてえ そげな心が通うと 上手に出来るんじゃ なかるうか 生意氣んごたるが』『りゃーヤッパ 違ふな それじ旨いち思うたわな』

玉をへネクル感觸 そこに人ん気持ちちが 盛り込まると自然そん手裁きも 上手になっち来るもん。目をつぶしてん指先にあたる あん玉。黒光りをへネクル時 回りんいろいろを 空想すると動きが早うなる。自然と手に滲む それは脂汗か それとん違ふた 湿りが潤いなのか。

友達が帰った後 『出してもいいかえ』 心ん中じ嚙くとハグッタそこには うっとうだけん『大事な玉』 指先じそつと触ると まるで聞こえたんか 自然と滑っち動き 思い通りの所に届くと止まる。なんと爽やかな 情感を醸してえちもくるるこん玉。覚えた12はウブじゃつた。今はいろいろ人間の 色々も知ったケンド チットモ変わらん玉は うっとうん指先と 二人三脚じこれからも 続いちくるる。

『そっじゃ今日は 久しぶりに玉磨きしゅう』 新しい手拭いじ優しゅヌグウト 自然カチカチと動いち いつも使う場所が 心なしかヘッチョルンガ 痛ましい。持ち運び簡単じ便利のいい 算盤はこれまじ ドンクレ役立ったか オオキニ頭をさげたら 『カチッ』そん音は『まだまだよ』ち 聞こえた。

『誰でん言われん頼みごと』

『こん前言いヨッタ又明日行うか』『しちくるるチャー嬉しい無理言うちすまんえ』『いいで わしもシチミタカッタき』。若い二人ん話しゃ弾むんも 無理んねえこと 人にゃ見られとぅねえし誰にでん 頼む訳にもいかんき。真剣押さえちグット刺すもう 思うただけでんワクワク。

『来たで どこじゃつたかなあ』 奥かる浮き浮きする声じ『こっちで チョイト上がちくるる』 『えーもうえ上がるんな』 『まあお茶でん飲んじ』『じゃな 朝茶はヨクンナち言うき』『そうで縁起もんじゃこと そりーこれかるシチモラウんじゃき 尚更んこと。

『はぐってんいいな』『ちょいと見ろうなえ』 ぼそぼそ動きたんび茶タンスまじ動く。『で一ぶん黒いなあ やっぱ黒がいいなあ』 しげしげ見よると腕が鳴るんじやろう 身震いはじめたもんじゃき 『しよわねえな』『心配せんでんいいで これならやれそうじゃき』『ふんと 安心した。シカケチどんこんならんち 止めらると困るち思うた。

慣れんこたあ勇気も度胸もいるが こんこた一もう何回かした経験なあった。ぐあいゆうハグッチじっと 手をすくると 持ちあげた。もうでえぶ使うたもんじゃき 見かけよりゃ期待はずれでん あつたがここじゃはじめち。やっぱ緊張せんた嘘になる。自信が出たんか顔見合わせち ニコット笑うと『よかった』ちほっと胸なでおろしたごたる。

『見かけによらんしゃんとしちよるなあ』『そげーあるかな』『すぐユウナルキな 早うじよかったわな』 嬉しい安心が全身かる伝わるごたるき 引き受けたのも荷がおるる。

覚えたはじめん頃にゃ なかなか調子ゆういかんじ 途中  
じへコタレチシマウ恥もけ一た。見かけによらん重とうじ手  
を 上手にかけたつもりが滑ったり 手が汚れるとソコラソ  
ンゲも 汚しちしまふ『ドンナサン!』ち ゆう笑われたもん  
じゃつた。

そり一相手が若い、きちんとした人、じっと見つめらるる  
なんか もう手元が乱れちしもうち サシタハズガ とっぺ  
んねえ所い入れたもんじゃき 声こす出さんが笑うんがゆう  
解っち おかしいやら恥ずかしいやら。そげな事があつたき  
今は ちつた上手になつち思ふが。

じゃけんど 何べんやってん一つことでんあるが やっぱ  
そりゃそれなりん苦勞も あつたり嬉しい事もあつち ヒョ  
カッ!そげんこつ思いで一た。『どしたんな!』考えこんだも  
んじゃき 心配したんじゃろう だまし声がかかった。『い  
んにゃ何でんねえで あんまり別嬪が目の前に!』『ちゃーり  
ゃ どげしゅうかまゝ!』

夢が好き沈みするごたる 奥座敷ん片隅じえ一と持ちあげ  
た ゆう踏みつくる所んソデタ畳。気になり苦になるんが  
ゆう解る場所じゃき早う ツクロワンとお客事じ恥じうかく  
。『手も口も効いてんやっぱ 畳んツクロイマジャ 無理じ  
ゃのう!』ち すぐ評判な広がちしまふ。

ひょいと持ち上げちツボ先出えた。サツサツと ヘリウ外  
すと豊表うヒックリカヤシタ。『こりゃ上等じゃ新しいより  
ゃ あんまり目立たんきいいで!』『じゃろうか よかつた!』  
もの一時じソツクリ新品に変身。ぎゅうと押しつけちポン  
足じ踏むとピタリ。『グアイユウ入つたで!』 『おおきに!』  
『入れ心地ヨカッタワナ!』『フント!』笑顔が連想しちよる。

五助さんが竹田かる 小無田峠まじ戻っち来た時じゃつた。  
茶店ん方かる賑やけえ話し声 いつ来てん話に花がさく場所。  
『それじそん松う切ったんな』 『じゃがえ一邪魔えなるき  
惜しなげ一けんどな』 『曲がったんでん 大工は使いきらんか  
な』 『使われんこたね一けんど ヨダキガルわな』。

『そやまゝそうじゃろうけんど それでん上手に使かや結構  
いいもんが 出来るんじゃねえ』 『まゝソククレ言いや 安く  
マキーち言わるるじゃね一な』 『なるほずなゝ それじ安う買  
うちゅこちなるんか』 『皆んな頭がいいなえ おれどうドシ  
チコゲ』 『昔しゃ大道に行くと 腦みそか代えがあつち  
聞いたが』 『わしも聞いたわな けんど入れ替え損なうと け  
っくしゃ悪うなつちも 聞いたで』 …『へー』。

『それじ あんたがん話しじゃが』 『そうじゃつたなゝ忘る  
る所じゃつた』 『そうで聞いたままじゃ わしも損になるき  
なゝ』 隣んしがこんだ 飛脚せんかち言われたと』 『飛脚え  
あんピラピラ飛ぶ あれな』 『じゃ けっくしゃ早えもんじや  
き 誰かが言うたんじゃろう 頼みきたんと』

『銭もがいと貰うらしいきな』 『ふーん わしがしちみろう  
か』 『飛ぶんが早えんな』 『いんにゃ そりゃ解らんけんど  
銭がガイトなら してんいいが』 『銭んこつう言うと相手が  
嫌うかん知れんで』 『こりゃひとめんち サイナラするじゃ  
ろうな』

話しゅう聞いちょつた五助さん これが又すきモーゴかけた  
ごつじゃき 馬をもう繋ぐと馬も心得たもん。『これじ帰りゃ  
晩方じゃろう どっこいしょ』ち 言うたかどうかは 確かめ  
んじゃつたが話ん弾みが又 大盛りになつちしもつた。悪のね  
え話しにゃすぐ人がヨッチタカッチ 集まच्च来る。

五助さんが入るちこちなりゃ もう話がどこまじ続くんか  
『それじスルこちなったんな』 思わん璧のりでえち言うも  
もじゃき釣りこまれちしもうた二人。『じゃーちや 錢も敵  
ん世の中じゃあるが 出来もせんこつ請けなうんも なえ』  
『そこちゃ 自信がねーぬすりゃ迷惑じゃこと』

旅んしが上り下りするが セカンシャ足ら止めとらもなる  
き 時んめに人数も多らなった。『まゝカケチ話しなゝ』  
茶店んしが盆に汲んだ茶が 運ばれち来た。『すまんえ』  
いいよせん喉がイロイタンカ がぶり飲むとあたりら見回  
えた五助さん 馬は知らんふりしち 寝たんじゃろう。

ゆう見りゃもう 丸太組合せに並べた腰かけにゃ あっち  
こっちコシカケチ なりゆきがどげなったんか 物見高え街  
道にゃノドカナ風物詩。

そうこうするなかめ 『ここじ一晩泊まるか』 せかんし  
は気早ら泊まるんも決めたごたる。『こいさ泊まってんいい  
かな』『相宿になるがいいかな』『いいで寝らるりゃもう』  
どっかんご隠居さん風体ん 色つやんいいしが気にいったん  
じゃろう。

『もうどげーなキリュウつけちゃ』『じゃなゝ日暮れにな  
るな 五助さんもコキー泊まるんな』『インゲットナ 帰ら  
にゃバアサンに セチボジカイサルルき』 『そげーかなゝ  
おとなしい ばあさんち思うたに』『見かけ倒しで』『ふん  
な早らイニチア そりいお光も待つちよろうもん』

とうとう結末が出らごたるが 無理もねえ問題じゃき  
どっちも ハシラニャナルメー』 ※ 柱にゃ。走らにゃ。



- 77P コンメー…小さい、けち。タマガル…吃驚する。ヨンベ…昨夜。ツイチョツタ…ついていた。ごたんな…ようですね。かぶせち…覆いして。ヤッパ…やはり。ヘネクル…あたりまわす。くしい…くせに。ナオンコツ…なおのこと。ウットゥ…私。ジキユウナルキ…すぐよくなるから。ソシタラ…そうしたら。ムイチ…ひらいて。フント…ほんとに。
- 78P ドンナ…ヘタデ。やっぱ…やはり。そげ……そんなに。つぶしてん…閉じても。ハグッタ…ひろげた。うっうっとうだけん…私だけの。くるる…貰える。ヘッチルン…減ってしまって。ドンクレ…どのくらい。
- 79P 言いヨッタヌ…言っていたのを。チャー…のは、なら。シチミタカッタ…実行したかった。どこじゃつたか…どこでしたか。くるる…いただけます。もうえ…すぐですか。しゃな…ですね。ヨクンナチ…避けないで。ミチモラウ…見てもらう。ばぐってん…開いて見ても。でーぶん…たくさん。やれそう…出来そう。ミカケチ…ふと見ると。こんこたぁ…この事は。でーぶ…だいぶ。ここじゃ…ここでは。しゃんと…しっかりと。そげ……そんなに。
- 80P ヘコタレチシマウ…くたびれてしまう。ソコラソングそのあたりいったい。ドンナサン…動きが鈍くて。とっぺんねえ…とんでもない。じゃけんど…ですが。やってん…しても。ひとつごとでん…同じ事でも。ヒョカッタ…急に。チャーりゃ…そんな。どげしゅうか…おもはゆい。ソデタ…傷んだ。ツクロワント…補修しないと。ピタリ…丁度わよくて。うまいぐあい。グアイユウ…ピッタリデ。フント…本当に。
- 81P ジャがえー…ですよ。おしなぎー…勿体ない事で。



81 P ヨダキガル…気乗りしない。ソクレ…そのくらい。  
なるはずな…そんな事ですか。ドシチコゲ…どうし  
てこんなに。がいと…たくさん。ひとめん…持て余す  
。すきーモウグ…農具で鋤《好き》馬鍬《まぐあ》と  
常に連なる意味。ヨッチタカッチ…皆が集まって。

82 P スル…始める。じゃーちゃ…そうですとも。セカンシ  
ャ…急がなければ。カケチ…腰かけて。イロイタンカ  
乾いたのか。そうこうする…そしている間に。こいさ  
今晚。相宿…同室の宿。どっかん…どこかの。キリュ  
ウ…結末を。インゲット…嫌ですよ。セツボジカイサ  
ルル…ひどく叱られる。イニナァ…帰りなさい。ハシ  
ラニャナラン…柱にはならない、走らねばならない。

誰でん長生きゃして一もんじゃが それもサカシュウじこす  
でんある。あ痛あ痛ん床ん中なら 銭があってん財産がなんぼ  
あつてん 本当ん幸せじゃなかるう。そこじ日頃かる心がけち  
サカシュしちよりゃこす おもしろ可笑しく過ごせる。心が  
豊かじありゃこれまた 何よりん事じゃけんど。

健康10ヶ条をちよいと 並べち見たが読む聞くだけじゃ  
何んにもならんソリュウ 実行するこつう肝にシャント しち  
生活すりゃケックシャいいもんじゃ。難しいえ ふんな勝手に  
してんいい 自由じゃあきな。でん後じクヨクヨ言うてんも  
そこまじゃ知らんで。まあ出来んこた一ねえ ヤッチオミリ  
ホウライイノデ。

★★ 長寿幸せ人生の鍵 ★★

少肉多菜…ショウニクタサイ 肉を控えて野菜で食事を。  
少糖多果…ショウトウタカ 糖分を控えて果物でカバー。  
少衣多浴…ショウイタヨク 薄着に慣れ親しみ入浴で清潔に。  
少煩多眠…ショウインタミン いろいろ考えずよく眠る。

野津原方言單語  
乙心ガリ



し シモブクレ……霜があって寒いから着こむ、寒さよけの防寒。  
シモウチョケ………しまっておきなさい、取り込んでおいて。  
シモユルーダ………下の方が少し不用心に、淫らな格好が怖い。  
シモウチョケ………しまっておきなさい、なおしてください。  
シモンシニャ………下の方の家の人には、あちらの人たちには。  
シモズリイク…………下の方に出向いて、方向に行くので。  
シモホズイイ………下の方が場所がいいので、好みがあるので。  
シモウタコツ………失敗したので、うっかりしていて、残念で。  
シモマジャ………下の方には、下までは遠いので、遠方だから。  
シモンサキ………下の先の方、下からさらに遠くまで、結構遠い。

シモカルノンボリ………下から上って来る、下手から上がって。  
シモケシ……霜の多い朝の御神酒、寒い朝の仕事前のいっぱい。  
シモタ………しまった、失敗した、うっかりしていて、残念です。  
シモサネ………下手の方に、下に行くのと、下の地区に回って。  
シモズリ………下のほうに向かう、下の地区に行く、下手に回る。  
シモンゴツ………下の方に行く、下手の方に回って、下手が先に。  
シモンネキ………下の方の側にある、下手の地区の側にあるから。  
シモナラ………下手なら、霜がおりたのなら、霜の朝は土が凍る。  
シモウタ………しまった、失敗した、うっかりしていた、残念。  
シモマジャ………下手までは、霜の事はっかり、霜がおりるとは。

ジャーキ………ですから、そう思っていたので、まさかと思った。  
ジャロウケン…………ですけれど、でもありましよう、解るわ。  
シャシンナ…………写真は苦手で、写真は骨抜くと言うから。  
シャントコベー…………しっかり者で、目がつんでいるから。  
ジャモンジャキ…………ですから、そんな訳ですから、そう言う事。  
ジャニナエ……………それなのになぁ、そう思うのになで。  
シャレチョル………着飾っています、おしゃれしているようで。  
シャラクセ………忙しい取り合うな、うるさいから、威張って。  
シャーシイ…………うるさいなぁ、まましておいたら。

し シモ…霜、下、などに使う単語で 下がつく場合は『シモテ』『シモノハウ』など 方向が現れます。地域によってはその下が 東であったり 西になったり 北を指しますが 地区では基準から見て 上《カサ》下《シモ》と 呼ぶ事が多いようです。

野津原の場合 肥後領だった関係で 熊本方向が『カサ』と呼び 江戸の方向が『シモ』と 呼ぶ地区が多いようです。地域性もあるでしょうが 川は上流を『カサ』と 言いますが 地域の呼び方は その地区によっても 異なるようです。又段差のある隣土士の 屋敷が並んである場合は 『カサ』『シモ』が その段の高低を そのまま表す呼び方も あるようです。

し ジャノメン……蛇の目の傘は横にすれば濡れる、ほのかな夢も。  
シャントコベェ……しっかり者、全てが堅実な人間性、誠実無辺。  
シャルマタ……男子用の下着、サルマタ、禪の後継者。  
ジャロウ……でしょうから、ですから素晴らしい、大丈夫。  
ジャツタ……でした、でしたので、終わって満足、よかった。  
ジャガナ……ですけど、でも少し不安、たぶん大丈夫だと。  
シャツチムチ…無理を押し通す、強引もいいが、道理が引くと。  
シャンシャン……万事愛でたしの祝杯、旨く行くときの喜び。  
シャガレ……声が枯れた有様、喉を痛めて声帯が、無理は禁物。  
ジャーナ……ですね、でしょうね、そう思います、同感です。

ジャンジャン……盛んに、素早く、大降りに、賑やかに。  
シャ……ごめん間違っ、うっかり忘れて、慌てていて。  
シャジ……わざとではないのですよ、申しわけない失態。  
シューカ……しようか、しましようか、してもよいですか。  
シュウチ……しようと思って、したいと思ったので、予定して。  
ジュクシ…熟柿、熟れすぎて、虫熟れもあるので、自然熟れは。  
ジュウビー……丈夫で、頑丈な物で、大事な必需品、堅牢に。



し シューチ…しようかと思う、しませんか、してはどうですか。  
ジュンバンド……順番に、順おくりにして、順序よくして。  
ジュビーノン……丈夫なようで、強くてしっかりしている。  
ジュチュウ…じゅーといい音が、10の内の、多分この中に。  
ジユウモン……勝手気ままな性格、人の指図は嫌う性格。  
シュウチュウテン……しよっと言うても、してよいやら悪いか。  
シューヤ……してはどうですか、はじめて見ては、取り組み。  
シュツサツ……切符の発売、切符を売り出して。  
シュツテイ……列車の入れ替えに使う言葉、特殊な決まり言葉。  
シュウジョウト……よくよく確認してから、よく聞かないと。

ジョー……だけが、相手の限定、鼻屑に誤解される、特定の。  
ショウベン……小便、水分の多い排便、小とも言う。  
ショワネンカ……大丈夫ですか、心配ないですか、念入りに。  
ジョロリ……冷たい目で見つめる、陰気な表情、途切れて出る。  
ショノム……嫉妬心が強い、妬み根性の表情、忌み嫌う。  
ショワシュウト……世話をしよう、世話をするはずが誤解。  
ジョロカイ……戦前の色遊び、遊郭に遊ぶ、尊厳を傷つける。  
ショニュー……根性がしっかりして、強い意志の持ち主。  
ジョウヒンブッチ……お高く止まって、自己満足、人は否認。  
ショーモネエ……仕方もない浅はか、役立たず、下品な態度。

ショウコカラギ……しっかりした根性に、信念が認められる。  
ショアルメ……大丈夫でしょう、せわはないと思うが、自信を。  
ジョウラン……女郎くも、姿形の整ったくも、子供の好きな。  
ショワアリヤ……せわがあってはこまるが、みんなが護るのも。  
ショウベントゴ……小便をする簡易トイレ、門口に備えた場。  
ショウジョウト……しっかりしなさいよ、きちんとしていれば。  
ショワシイ……忙しい、多忙で働く、雑多な仕事が多くて。  
ショワンワリニヤ……世話するわりには、世話も身のために。  
ショワガリヤ……忙しいおけば報いも、世話をするのも宿命。

し ションペンタゴ…現在は家の中に設備してある 便所、トイレ  
お手洗い、など言い方も多いが 古くは『セッチン』…『セン  
チン』…などと 呼び名も家庭環境で 変わって来た。農村で  
は『便所』が一般的だが 昔は『センチン』で 通っていた。  
上品には『オフジョウ』とも。

本屋から離れてあり夜の用足しは 一旦本屋を出て行くのが  
多かったが 富豪では上『チョウズバ』が 廊下伝いにあった  
時代も。手洗い場に水湛の鉢 後にブリキ製の『カランカラン  
』と 下から押し挙げて水が したたる手洗いが吊り下げられ  
ていた家も。そして脇に『なんてん』が 植えられて 倒れた  
場合はこれに捕まると 難を逃れる。ので『ナンをテンずる』  
との ゴロ合わせのような 習慣もあった。

入口のすぐ脇に小さな掘り穴があり ここで用足しが出来る  
『簡易トイレ』が備えられて 不意の来客 不案内の人でも  
トイレはすぐ解る 心くばりでもあった。勿論三方囲ってある  
ので 女性も利用が出来た。早めに汲み上げて田畑に 撒くの  
で常に清潔にしてあった。

生活に人間の生理現象に 欠かせぬ物だけに配慮した 先人の  
心くばりでもあった。が下痢気味のときなど 実際の場合はや  
はり大変だったよう。やがて普通は外でも寝間からは 行ける  
場所に作った家も多くなった。

し シラメツブシ……虱潰しのように徹底的に、厳密に捕獲する。  
シラニャシランジ…知らないならよいから、知らねばよそを。  
シランフリュ…知らぬふりしている、知っても教えない人も。  
シラレンケン…知られないように、内密に連絡して、漏れに。  
シランコス…知らないからよいかも、知らぬが仏、知らぬ幸。  
シランメ…知らない間に、後で気がついて、油断も隙もない。

し シリコスバイ…恥ずかしくて、恐縮してしまいそう、やめて。  
シラシンケン……頑張ったから、真剣取り組んだ成果、敢闘。  
シラム………明るくなる、夜明けになったよう、見えだして。  
シラミカクル………明けはじめたよう、明るくなりつつあり。  
シリコヤセンニ……知らないけれど、知らないと言うたのに。  
ジリビヤキ…小麦の粉を練って焼いた餅、非常食の小麦粉餅。  
シリヤミスナ…尻は見せないがよい、徒に変な気を起こす。  
シリモセンクシ……知った振りする人もあるが、知らねば由。  
シリソボクッチ…知った振りした為に失敗、知らずも恥なし。  
ジリクボタ……湿気の多い田んぼ、作物が多く取れない欠点。

シリベロ………尻の周りの、大事な体の要、健康のしんぼる。  
シリモチツイチ……尻をつき据えた痛み、痛みを拗らせぬ事。  
ジリクバヨキ……湿気の多い田んぼは不作に、乾燥に注意を。  
シリンケマジユ…尻ん陰毛まで取られないよう、恥部の用心。  
シリヤネラワルル…尻の警戒ご用心を、尻好きが多い世の中。  
シリオミー………動きの遅い人も、さっと動く行動と対照的。  
シリヤセン………知らないのです、知らない時ははっきりと。  
シルカ………知らないですよ、しらないから返事が出来ない。  
シルカケメシ……飯に汁をかけてさらさらと、即席の食事法。  
シリモデランゴツ…尻は見せないが得策、尻好みもあるもの。

シルルナ………知られないように、知られなくてよいことは。  
シルシチョケ……印をつけて、確認の印に、はっきり区別を。  
シルメケンド……知らないだろうが、しておく必要もあり。  
シルリヤワリー…知られない法がよい、知られたくないので。  
シルコタネエ……知らなくてもよいから、して何になるの。  
ジルメニシヨ………湿りを多くして、湿気が多いがよいよう。  
シルシイキ……雨では鬱陶しくて、邪魔雨いやがらせは苦手。  
シルナカッテド……知るのは人の自由、知っていてよければ。  
シルチュウテン………知ると言っても、覚えておくのも勝手。

し シレット…ひややかな様子、薄笑いタイプ、好かれない性格。  
シレテンヤ……知られてもいいから、知られても心配ない。  
シレタント…しられたらしいが、知られても関係内ないから。  
シレチョリヤ…しれているほどの者、たいした事もないから。  
シレチョル……知れた内容の相手、あまり信用もないから。  
シレチョンゴツ……あまり相手にもされない、知れた内容で。  
シレチョツテン……知れていても、知られたものでも。  
ジロット……黙視するような陰湿、好かれない性格、  
シロウチュ……知りたいと思うが、知らなくても解るから。  
シロメジ……陰湿な態度は嫌われる、白眼視する性格。

シワデンヤキタツ……皺も使いようで、皺が汚れ水がよける。  
ジワリヤアブネ…地震の前兆かもしれない、地響きに警戒を。  
ジワリジワリ…静かに落ち着いて近づく、警戒の必要がある。  
シワガレゴエ……かすれ声になっている、声がかすれて。  
ジワレン…地割れの危険性、地震の前兆かも、警戒しないと。  
ジワット……静かに、落ち着いて、物静かに、静寂な。  
シワナロージ…皺が並んだ老体の笑顔、皺も笑顔には似合う。  
ジワジワクル……静かに近づいて、押し寄せた波が、寄せ波。  
シワガレン……皺枯れたかすれ声、痛みは大丈夫か。  
シワラゴエ……皺皺になった声、声帯が痛まないか心配。

シワンジョウニ…皺がまして老人顔に、老人には皺も似合う。  
シンジョル……死んでいますよ、逝去した、死去している。  
シンジョワカネジャ……財産は金だけではない、人徳こそが。  
シンダナンカ……死去したなど信じられない、逝去なの。  
シンジャンンモ…死んでは何にも惜しい、逝去の知らせとは。  
シンジョアルタケ……財産全部の、それだけではない人徳も。  
シンボスリヤコス……辛抱して健康で、人徳積んで心豊かに。  
シンデンヨロコバレチ…惜しまれてこそ、施しは報いになる。  
シンジハナサク……逝去による人生の花が、笑顔にご褒美も。





方言単語が広がると 同じような発音も多いが、それが方言の面白さかも知れない。方言集の性質上に使われない、使ってはいけない、差別語、卑下する発音なんかも ありますがご了承ください。この項には『す』の単語からです。

ズーシロ……………仕事に精出さない、汚い白色。  
ズータロウ……………仕事嫌いで遊んでばかり、無精者。  
スーテンカン……………嘘ばかり言う、ありえない事を言う。  
ズータンガイテエ……………頭が痛い、頭の痛さに悩む。  
ズータンオオゲナシ……………頭が人並みより大きい、大型頭。  
スータナイイガ……………吸ったのならいいが、吸えば仕方がないが。  
スーカン……………嫌いです、嫌いだから、気性が合わない。  
ズーシイ……………仕事嫌い、骨折りな仕事は嫌い者。  
スーナエ……………吸うのでしょうか、すうてもよいでしょう。  
スーニー……………吸うものですから、吸えば毒素が出るかも。

スーノウ……………すうのですか、吸う事でバイキンが取れるかも。  
スアッチョケ……………座って居なさい、座りなさい、座って待ったら。  
スアユー……………酔の物を食べたら、酔の物を調理しましょう。  
スアッタナイイガ……………座ったのですが、座ったもののやはり。  
スアルリャ……………吸われるなら、座れるのであれば、座って見ては。  
スアブリャ……………吸いついて吸うなら、吸うだけでも喜ぶ。  
スアブレ……………吸いついて吸うと、吸う事で満足すれば。  
スアシュ……………はだしのままで、素足では寒いだろう、素足訓練。  
スアンジョケ……………吸わないように、吸うと無くなって不自由する。  
スアシジャアブネ……………裸足では危険ですから、素足では用心を。

スイタナイイガ……………鋤き起こしたのはよいが、空腹なら検査が。  
スイチーチ……………吸いついて、吸いついたヒルに痛さが。  
スイチヨル……………空いていますから、空腹ですので、ガラあき。  
スイッチョ……………虫のナキゴエ、鳴き声で判断する子供も多い。

す スイバリャトッタ…刺さったとげは取った、早くとるのが。  
スイテンド…空いても、吸いたくても、鋤いても。  
スイタゴタル…鋤いたようだから、空いたらしいから。  
スイチョルキ…空いているので、鋤いたから植えて。  
スイデータ…吸い出したから大丈夫、吸えば元気になる。  
スイクチン…きせるの吸い口修理、楽のみの吸い口なら。  
スイゴタル…酸味の強い感触、酔いのは苦手、酔もの好き。  
スイクージョル…吸い込んでしまう、吸い込まないように。  
スウチョツチ…吸い続けてください、吸えば大丈夫通過。  
ズウグツ…ぐずぐず言う性格、はっきりしない性質。

ズウシロデン…仕事苦手でも食うときは、得手もある人間。  
スウテン…吸うでも、吸うたのだが、吸うて見たとて。  
スウツクレン…おかしくもないのに、面白くもないのに。  
スウブリャ…吸う真似したとて、吸うのはよいけれど。  
スウナモンナ…吸うものはないのですか、吸うものはない。  
スウタロユウ…おかしな事を言うて、ひょうきんな事を。  
スウトン…吸うけれども、吸うでもよいけれど。  
スウグリャ…吸うくらいのことは、吸うのはようが。  
スエタナクウナ…腐敗したのは用心を、食中毒に用心を。  
スエチヨリャ…腐敗したのでは、食べないほうがよい。

スエチヨル…腐敗しているよう、たべないが無難。  
スエインタ…腐敗しないとは保証が、いたみやすい季節。  
スエタカン…腐敗したのかも、用心しないと食あたりに。  
スエニャ…腐敗しなければいいが、用心に越したことは。  
スエレメーニ…腐敗はしないと思ったが、季節柄用心を。  
スエツチョケ…腐敗したのは間違い無い、用心が無難。  
スエテン…腐っても惜しい気持ち解るが命とは変えられん。  
スエングツ…腐敗せぬように、充分対策も、食中毒に注意。  
スエチノウ…腐敗したから捨てないと、うっかり食べない。



す スオイリ……………酢をいれなさい、酢を効かせて、酢の追加。  
スオカタシ……………酢を余分に入れた寺、少し多く酢を入れて。  
スオチギレ……………酢みかんをもちで、酢の多い分を収穫。  
スオムキャ……………酢みかんを食べては、酢みかんでもどう。  
スオウツ……………酢を入れて仕上げる、寿司飯に完成。  
ズボラ……………仕事きらいな性格、遊び好きな困った性格。  
スオマメセ……………酢を調合して、酢飯に仕上げて。酢の物料理。  
スオマジ……………酢を調合して仕上がり、寿司飯の完成。  
スカンジョ……………空くじばかりで、当たりくじに出会わない。  
スカタンナ……………本当に役立たずで、気が効かなくてどうも。

スカ……………空くじ、当てにならない人材、気が効かなくて。  
スカッチョ……………敷かれている、下敷きになったままで。  
スカンタラシ……………嫌いな性格で嫌味がする、大変嫌いな。  
スカンヤツジャ……………嫌いな人で、嫌われもので損をする。  
スカンゴタリヤ……………嫌いならそのままに、嫌いな事ははっきり。  
スカンデン……………鋤かなくても、空かなくても、嫌いでも。  
スカラカン……………全く無くなって、まったく無一物に。  
スカンジョ……………空くじばかりで、実りがなくて無駄に。  
スカンガエ……………嫌いですがとも、きらいなのに迷惑。  
スカン……………空かん、空腹ではないので、鋤かないから。嫌い。

スキサキュ……………鋤きの先を点検、鋤き先に用心を、鋤きさき。  
スキズキ……………物は人は好みがあるので、好まないと嫌いが大。  
スギンミデッポ……………杉の実を利用した子供の玩具。  
スキクシ……………好きなのに嫌いな素振り、嫌いな様相が好き証。  
スキウミチ……………余暇を見計らって、瞬時を利用する、感知。  
スキマンカジュ……………隙間風は冷たい、古家は隙間風が名物。  
スキスリヤイ……………好き勝手にすればよい、自由に使い分ける。  
ズキズキ……………厳しい痛みの感触、耐えられないような傷の痛み。  
スキヤミスナ……………油断大敵は世の常、うっかりは禁物。

す スキクージ…鋤きこんでしまった、深すぎてもよくないから。  
スキグレ…鋤きあとの大きな固まり、下手には固まりの土産。  
スキシチョケ…好き勝手にすれば、自分のいいように、自由。  
スキンマメ……好き勝手に、自由に好きなように、任せて。  
スクロージ……懲り固まって、痛みが集まって、こわばる。  
スクノージ……少なくて恐縮、すくなくで悪いけれど。  
ズクタンガ…頭が少し大きいかな、形が悪いかな、多種多様。  
スグシメッチ……すぐ湿る<sup>と</sup>情熱家、湿りは幸せな証拠。  
スグデン……すぐにでも、急にでも、瞬時にでも間に合う。  
スグター……すぐなどとと言われても、急では困ることも。

スクット……急に立ち上がり、瞬間的に対応する性格。  
スクレチ……こわ張って、少しマッサージを、凝り固まって。  
スクワニャ…すくはないと、すくい込まないと、取り入れる。  
ズクタンガ……頭が大きいので、頭の形が上品で、多種多様。  
スクウチョル……すくっていたが、すくい込んでみたが。  
スクイモイルキ……すくい道具も必要、すくい入れの道具。  
スグオール……すぐに芽がでるので、すぐ発芽しますから。  
スグリャ……きれいに整備して束ねると、次の利用に便利に。  
スクウチョケ…すくいこんで整理すれば、空気の流通をよく。  
スクルル……疲れた足の状態に、疲れがたまっているよう。

スケベーニャ……色気違いには困惑、無造作の振る舞いは。  
スゲダチャ……つくりだしたままでは、修理の後はしばらく。  
スゲチョキヤ……修正しておけば、新しく使われる。  
スゲタナ……修理したのは見違えるように、有効に生かされ。  
スゲカエチ……修理して最利用、新しく使いこなせる。  
ズケズケユウ……物怖じせず言う、遠慮なく言うのもよい。  
スゲノウ……むごたらしく言う、それもその人の為になれば。  
スケモミャアカン…はっきり見えすぎて、目の毒にもなるが。  
スケチミリャ……見え見えでよいのか、場合じゃようのでは。



す スコドン……………織細でなくて、下手な行動失敗も多くて。  
スゴクド……………外側の不純物をきれいに落とす、見かけよく。  
スゴモリャ…巢にこもっているよう、抱え卵しているよう。  
スゴクトイテー……………外側の不純物取り除きで手を荒らして。  
スコードチ……………鋤きあげようと、泥上げで取り上げる。  
スコタン……………何をさせても不手際が多い、気配り下手で。  
スゴイチャレ……………外見をきれいにする、見かけをよくして。  
スゴーチ…前後に寝て無駄を省く、子沢山家族はこんな形。  
ズザズザ……………ばらばらに裂けて、乱れた様相になって。  
スサイレチ…壁土に藁の刻んだものをいれて、つなぎの役。

スザクルキ……………ばらばらになるので、怪我をしないように。  
スザッタンカ…巢から飛び立った、元気よく巣立ち大空に。  
スザチャハエー…いつの間にか育って巣立つ、それぞれの。  
スザツト……………巣立ち元気な姿に、無事に巣立ち飛び立つ。  
ズシリオミー……………腰に應える重さ、予想以上の重さに。  
スジガトオル…理屈が通っている、意味があるから効果も。  
スジャハズス……………無理した為に筋肉を痛めたよう、筋肉痛。  
スジュツル……………筋肉通で苦勞する、無理は何が起こるか。  
スジュトレ……………筋を取り除く、筋書きをしつかりと。  
ズシット……………重さが全身に應える、予想以上の重さに。

ズズズシ……………圧歩訓練、不気味な音が、よほど重いようだ。  
スジカイン……………建物の補強の手法、交差した強度方法。  
スジグリャ…筋くらいは取って、筋書きはしっかり決めて。  
スジュトオス……………基本はしっかりと、理屈が通らないと。  
ススグレ……………煤なんかと油断禁物、煤の功罪に注意を。  
ススギャ……………洗い直すことで、清潔に仕上げるにも。  
ススマミリ……………煤にまみれた屋根替え、黒光は男の勲章。  
スズボロ……………雑草山などになっている、危険箇所にもなる。  
スケケチオル……………煤にまみれた資材の再利用、使い方では。

す ススガニャ………きれいな水替えして、奇麗になったので。  
ススマミレ………煤にまっ黒になったが、屋根替えの苦労章。  
スズシカウ…涼しい顔している、何事もないような平然と。  
ススメチャレ…世話してあげたら、前に出して役立たせる。  
スズミュトル………酢の漉し水を利用、酢は利用価値が多い。  
ススイダキ…奇麗にしたので、水洗いしたので、仕上げた。  
スズリュ………硯の出番、余暇に習字の練習も、墨客来訪で。  
スズンジョケ…涼んでいたら、涼を楽しむ一時、夏ご馳走。  
スゼジャアチー………熱さに用心を、注意が肝要、油断大敵。  
スゼンモウメー………簡単な料理にも旨さが、心かこもれば。

スゼンシアギユ………酢料理の至難に挑戦、格別な味わいが。  
スゼグル………酢まめした料理、酢を利用したお手際、奥技。  
スゼガン………手作りの料理に旨味が宿る、簡素が奥義に。  
スゼンママ…土産なしの来訪、突然の来客、手ぶらで来る。  
スゼナリャ…土産なしでも、気を使わずに、心通い合えば。  
スソマクリン………裾までまくった仕事姿、ちらり見えても。  
スソマイリン………お楽しみの奥義に、そんな仲ならば。  
スソカラギユ…裾からげても切り抜ける、底力も出るもの。  
スソマジ…裾まで出しても肝心な場所は、健気な振る舞い。  
スソワキ…裾の脇には観音菩薩、大切なご本尊は御守りを。

スソグレ…裾だけは大切にしないと、油断大敵な場面にも。  
スソタチ…しばらく禁欲してこそ、大事にしないと思わぬ。  
スソデン…端々の美観は全てを物語る、素晴らしい人生で。  
スソガミュンド…見せてはならない、奥ゆかしさが価値観。  
スソミスナ…美しい花にはとげもある、我慢も宝なり。  
スソンカタワキ…菩薩の見守りは 人生も楽し過ごさせて。  
スソマジャ…………守ってこそ価値があり宝物と思う。  
スソンオキー………護身してもらおう頼みにはきっと報いも。  
スソンマンマサン………観音菩薩に幸せを念じ幸の多かれと。



す スダマ<sup>マ</sup>マユ……………酔がたまったから、酔を絞って貯蔵する。  
 スダ<sup>チ</sup>チ……………巣から飛び出して、生まれ育った小鳥も飛んで。  
 ズダズダ……………ばらばらに裂けて、乱れ飛ぶよえにちぎれた。  
 スダ<sup>マ</sup>マアカ……………まだ飛び立たないのか、育てて無事に飛ぶ。  
 ズダンズダン……………裂かれ切れてしまって、ばらばらになって。  
 スダツタント……………巣から飛び出して育つ、今年も巣立つた。  
 スタンコハユーナ……………冗談ばかり言うものではない、楽天家。  
 スタレチシモウチ……………微塵になって気の毒な、哀れな姿に。  
 スダリュウ……………笑りすぎて疲れた様子、疲れ気味の収穫残り。  
 スダチュ……………巣たちになつた、酔をたった食生活に馴染む。

スジンジョウ……………筋が多くて固い、食べにくい物。  
 スヂモトオル……………話がわかる理論、筋道は通っているが。  
 スチャラカラ……………楽天家の話は切りがない、相手も出来ない。  
 スチ……………捨てなさい、捨てて処分を、必要なくなったので。  
 スチチュウニ……………捨てなさいと言うのに、邪魔になるので。  
 スチチュウタニ……………捨てよと言ったのに、いつまでもあって。  
 ズットジャロ……………続いていつまでも、際限のない期間が続く。  
 ズツコー……………頭の痛い時にこめかみに張る膏薬、痛み取り膏薬。  
 スッチミヨ……………吸って見ては、刷って見たら、吸いついては。  
 スッパンプ……………調子のよい話、楽天的な話題、オモシロ話。

ズツネ……………濡れて、いやらしい話、相手がしっこいのに悩む。  
 スッチャレ……………刷ってあげたら、吸ってあげたらどう。  
 スッス……………通気がよい、隙間風が通る、調子よく進んで。  
 スツンナヤ……………捨てなさんな、捨てないでね、捨てたら悪い。  
 スッタモンダ……………いろいろあった挙句に、込み入った話が。  
 スツルクシ……………捨てる癖にすぐ捜し回る、不用心の性格。  
 スツチョル……………吸っている、刷っていますから、吸いながら。  
 ズツノーネ<sup>カ</sup>……………濡れて嫌いでは、うるさくて嫌らしい。  
 スットンカワ……………嘘ばかり言う性格、嘘は泥棒の始まりとか。

す スックシジシートゴツ……綿密に実に詳しく行き届いて。  
ステジツモウジ……熱くは無いかな心配ですが、用心して。  
ステタモンジャネエ……とても素晴らしい利用価値がある。  
ステジイクナ……そのままゆきますか、大丈夫でしたか。  
ステチョケ……捨ててよいのですか、捨てては勿体ないが。  
ステンコロソ……あっさり負けてしまう、油断大敵でした。  
ステレン……捨てられない思いが入って、利用価値あり。  
ステジャアブネ……そのままでは危険です、用心して怪我が。  
ステニャ……捨てないと、切りがないので処分の勇気も。  
ステラレン……捨てられない気持ちがある、思い切りも大事。

ステラルル……捨てられるので、思い切り処分もしている。  
ステジイイキ……そのままでも大丈夫だから、用心はして。  
ステチコス……捨ててこそよかった、処分に困っているの。  
ストラクガオ……横着な性格で嫌われる、用心したがよい。  
ストンカオ……嘘ばかり言う性格で嫌われる、用心しないと。  
ストンキョ……吃驚したような態度、言葉、用心して好誼。  
ストロク……嘘が多くて信用が薄い、適当な付き合いで。  
ストスト……一滴がたれるような、早めの対応で清潔に。  
ストオリュ……知らぬふり通過、触らぬのも得策か、用心。  
ストマリジ……泊まるだけの利用、ビジネス旅館、簡易宿。

ズドント……地響きと共な音響、警戒して見回して用心。  
ストシコ……多くて、多い場合、多くがあって、集まる。  
ストンキョ……急に大声で叫ぶ、吃驚するような雰囲気。  
ストンパチ……嘘並べが旨い性格、信頼が無くなってしまう。  
スナオジャタノメン……まともに頼みは用心、見極めて。  
スナブクル……砂の入った袋、非常用の備品、用心こそ。  
スナマジリ……砂の入った土、利用では役立つ場合も。  
スナツチュ……砂分の多い土で乾燥性質、利用では効果が。  
スナカブリ……砂をかぶって害を受ける、強風に砂が飛ぶ。





## あとがき

皆様のご支援ご協力によりまして No.21号も掲載原稿は 全て入りました。今回から仲間入りした 『宇曾山物語』も 野津原の顔として登場いたしました。修験の場として古くから 鍛練による人助けの悟りが開けた 真心によって難渋する 人を救う本来のこの世の人は皆んな 無病息災でありたい 願いが達せられるなら何より 幸せと思います。

戦後の故郷は昭和33年から 敗戦から10年あまり過ぎた故郷の 努力の繁栄がバランスを 維持しつつ発展する 時代背景が覗いているようです。特に青年団 消防団 女性集団 村の町の中核として これからの進展にも期待が かかっています。自然に恵まれた故郷の断面を見ると これからの躍進が待たれます。

宝の玉手箱には知られぬままに 消えてはならない人間の 魂がそっと眠っています。先人の苦労が無駄にならぬよう なんだかの形で感謝の思いで 陽の光にあててあげたい。それが現世の人たちの務めであり その施しがやがて報いにも なるものです。松根油には考えられない 現実の世界も歩いたのです。木炭バスも頑張った戦争中のこと 絶対戦争はあってならないのです。

女性は強いだから苦難も乗り越え 喜び合う結果も到来する。心を豊かに有意義な人生こそ 健康にも連なり笑顔にも出る。そこに底力が加わることで 鬼に金棒とは昔の『いろはかるた』にも あり今も教訓として行って来た。先人の言う言葉には無駄は 無理はなく人の道として 行うにこしたことはないと思います。

方言単語も広がりました。使ってはいけない言葉 でも方言集のヒトコマです。ご理解くださいますように お願い申し上げます。余暇にどうか笑いながらでも ご照覧くださいませ。ご自愛の程を

。

伝言板



No.22号の予定です。※…故郷のあんげこんげな こげな話。★…遅しい『女性の底力』  
◇…五助の街道物語は『宇曾山物語No.2』  
◎…伝承、民話。△…戦後の故郷⇒昭和30年代後半から。□…方言子どもん世界。

★…故郷ん味、魅力。◇…宝の玉手箱。●…ちょつと一服。なんかが 並ぶ予定です。

★★★ 新しい読者の声から 面白い書き方にチョイト 疲れたと思ったら ジャンルが変わった。紙芝居のような感覚で 余暇が楽しめます。

△△△ 野津原に勤務したことがあり 馴染みの地名が出る度にあの 当時の事が思い出されます。ふと…と思いつつ読んで行くと答えが出るような 文集に地名がフット出て引きこまれます。

◎◎◎ 知人の名前が出たりすると 自分は知らないのに 文字が連れて行ってくれるよう。わが家の宝物がまた 一つふえました。

こんなお便りを頂きますと 素人集団が余暇につくる 方言集冊子に 思わぬフォワードが湧きます。20周年には励ましのコールも 沢山いただき厚く お礼を申し上げます。これからも続く限り頑張って 皆様にご愛読を頂きたいと 隠れた話題 里のよさ仄かな夢とロマン。どうかいつまでも お元気で見守ってください。ご自愛なさってお越し ご祈念申しています。

調査員一同

